



千葉大学医学部同窓会報 第174号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者  
千葉大学医学部  
みのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
みのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : http://www.inohana.jp/

# 年頭の挨拶

みのほな同窓会長  
**済陽高穂** (昭45)



年が改まりました。皆さま健やかに新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

してもらうもので、設置場所、規模、予算などを検討中です。またこれは、一部旧本館・部分保存リノベーションなどへの関連も考慮されるので、専門家のご意見も勘案しながら進めたいと思っております。

るのほな同窓会においては、新同窓会館が落成し、見学も兼ねたクラス会や大挙祭での同窓生懇談会(ホームカミング)など徐々に各方面で利用・活用され喜ばしいことです。さらに學術研究会や他学部を含めた会合などに利用されることを期待しております。

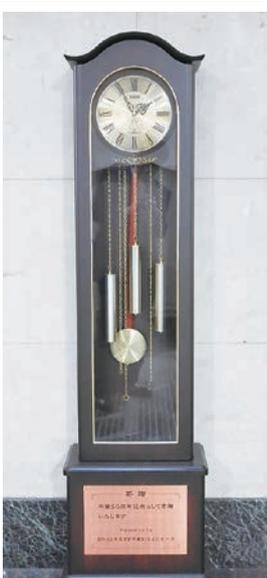
2. るのほな会誌編集・発行。現行の年3回のるのほな会報に加えオンライン会報を常時発信しており、また135周年事業として立派な記念誌が発行されましたが、1~2年に一度程度の同窓会活動のまとめとして、あるいは各支部活動状況の紹介と支部間連携を兼ねて、また過去に発行されたるのほな会報の部分的復刻なども含め、保存しやすい形の小冊子の発行を検討中です。

昨年10月、日本医師会より「医師倫理規定」が改定・発布されましたが、医師の生涯学習、患者中心の医療を基本とし、終末期医療、生殖医療、遺伝子診断とその結果への対処方法、医療安全などについての指針が示されており、同窓会の立場からはやや逸脱した意見具申になるかと思われ、但し「医療安全」や「医道の高揚」は古くから命題であります。

経験し、深く反省させられております。これらを防止するためには、医学部教育段階から医療界を含め、医療職に進む人間の能力とともに患者さんなど病める人々への同情や誠意を持ち合わせる熱意のある優秀な人材を投入するしかなく、医学部入学選別時にも学科学試験のみでなく、米国の如く入学定員の約4倍程度に絞り込んだ志願者を、面接試験(通常2名以上の試験官で30分以上)により合否判定をする必要もあろうかと思われ、

年頭の挨拶	1	学生教育	19
就任挨拶	2	学内情報	22
奨学会	4	随想	24
最終講義	5	会員から	26
人事異動	6	地区のほな会報	27
各地のほな会	7	課外活動団体だより	28
クラス会	10	著書紹介	29
研修プログラム	16	オンライン会報	30
追悼文	18	編集後記	31
雑文雑談	18		32

卒業50周年記念として  
昭和42年医学部卒業生(ちよに会)一同  
医学部本館正面玄関



**最終講義**  
のご案内

病原細菌制御学  
野田 公俊 教授

日時 平成29年2月14日(火) 午後3時  
場所 医学部附属病院ガイネットホール(大講堂)  
演題 ミクロの世界のトキシシンハンター  
—細菌毒素の無毒化プロジェクト—

**寄贈**

**祝叙勲**  
平成28年 秋の叙勲  
瑞宝双光章  
小田 博之(昭28)

**みのほな同窓会への寄附**  
秋葉 哲生(昭50) 三十万円  
ありがとうございます。

# 就任挨拶

## 千葉大学大学院医学研究院

### 臓器制御外科学 教授

大塚 将之 (昭63)



平成28年10月1日付けで宮崎勝前教授現国際医療福祉大学副学長・三田病院院長の後任として千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教授を拜命致しました。ゐのはな同窓会会員の皆さま、千葉大学の諸先生方をはじめ、多くの方々にご支援を賜りましたことを、この場を借りて心より御礼申し上げます。

私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業後、奥井勝二教授が主宰されていた千葉大学医学部第一外科学(現在の臓器制御外科学)教室に入局しました。入局後は大学および関連病院にて消化器を中心に、乳腺・甲状腺、心血管など外科学一般を学び、平成3年に千葉大学大学院医学研究科博士課程に入学しました。大学院時代

Parisとの共同研究で遺伝子導入の基礎的研究も行ってあります。

平成12年に帰局した後は、宮崎勝教授のもと肝胆臓外科領域の臨床・研究・教育に携わり、特に平成17年には千葉大学医学部附属病院肝胆臓外科における肝移植治療の立ち上げを主導し、生体部分肝移植を施行、その実績が認められ、平成26年には全国24施設目の脳死肝移植実施施設として認定され、同年千葉大学初の脳死肝移植を施行しています。臓器制御外科学教室は、第一外科学教室時代も含め、127年の歴史があります。その系譜からすると私は第

平成8年からは、当時の千葉大学医学部第二外科学(現在の先端応用外科学)教室の落合武徳教授、第一外科学教室の中島伸之教授、宮崎勝講師のご高配により、ブリュッセル(ベルギー)にあるルーヴァンカンソリック大学に留学し、肝移植にふれる機会をいただくことも、Pierre Gianello教授のもと、ミニブタ、ヒヒなど大動物を用いた、特に移植免疫についての基礎的研究に携わりました。その間、レホボット(イスラエル)にあるOmrix Biopharmaceut

9代目の教授となります。その間、先人たちにより教室は発展し、特に肝胆臓外科領域では、日本有数の、そして国際的にも評価されるようになっております。

私は、それを少しでも前に推し進められるよう、臨床・研究に邁進していきたいと考えております。また、教員面でもacademic mindをもった外科医の育成にこだわり、地域から世界まで幅広く対応できる人材を数多く輩出したいと思っております。ゐのはな同窓会会員の方々には今後ともご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

平成28年6月1日付けで、野村文夫前教授(現千葉大学医学部附属病院マズスペクトロメトリー検査診断学・特任教授)の後任として、分子病態解析学講座の教授に



## 千葉大学大学院医学研究院

### 分子病態解析学 教授

田中 知明 (平4)

就任いたしましたので、ご挨拶を申し上げます。当教室は、がんや代謝性疾患を軸に、疾患病態の分子メカニズムの新たな側面を切り開くべく、ゲノム編集技術やSingle Cell解析など新しい技術を積極的に取り入れた先端的な研究を推進しています。特に、これらから到来するパーソナルゲノム時代・ゲノム医療に対

応すべく、革新的な診断・治療法の開発を目指した次世代の分子病態解析を展開していきたいと考えております。

私は、平成4年に千葉大学医学部を卒業し、その当時は、故吉田尚教授が主宰されていた第二内科に入局しました。臨床研修の後、平成7年に大学院へ進学し、齋藤康前学長の元、細胞周期とアポトーシスの研究に従事し、学位を修めました。その後、国立がんセンター研究所の故田矢津一郎部長のもとで、がん抑制遺伝子p53の研究、特に、リン酸化シグナルと下流遺伝子の探索に従事しました。ゲノムの守護神と呼ばれるp53が特定のリン酸化を受けることで、アポトーシスを強く誘導するようになるメカニズムを発見し、国際的に高い評価を受けることができました。その縁あって、平成14年からは、日本学術振興会海外特別研究員として、米国のニューヨークにあるコロンビア大学でp53研究の第一人者であるCarol Privé教授の下に留学しました。約5年に渡る海外生活でしたが、p53とクロマチン制御の研究、とくにプロテオミクスを用いたエピゲノム解析に携わりました。

今後の抱負として、これまでに私が培ってきた先端的「技術」とノウハウ、国際的に育んできた「人」脈とコミュニケーション力、基礎と臨床の実績から積み上げた「智」見を、後進に伝えていきたいと思っております。ソーシャルスキルとリーダーシップを兼ね備える国際色豊かな人材の育成、将来の先進医療を見据えながら共に夢(ビジョン)を持つことのできる心豊かな人材の育成を心掛けながら、グローバルな人的交流と技術交流を通じて、基礎研究と臨床研究の架け橋を目指して、千葉大学のさらなる発展に貢献したいと考えています。

今後の抱負として、これまでに私が培ってきた先端的「技術」とノウハウ、国際的に育んできた「人」脈とコミュニケーション力、基礎と臨床の実績から積み上げた「智」見を、後進に伝えていきたいと思っております。ソ

「Nous Ou Allons Nous」とその絵の迫力に、とても感銘を受けたのを今でも覚えています。これからは、多くの学生や大学院生、研究者を指導していく機会がより一層多くなると思います。

私は1987年に千葉大学医学部を卒業し、救急、麻酔領域の臨床研修後、千葉大学大学院では齋藤隆先生のご指導の下で免疫学の、

## 帝京大学ちば総合医療センター

### ペインセンター 教授

青江 知彦 (昭62)



また米国ハーバード大学では細胞生物学の研究に従事致しました。帰国後千葉大学大学院医学研究院では基礎研究に、また附属病院では臨床に従事しておりますが、2014年6月に千葉大学を退職致しました。その後市中病院勤務を経験してから、2016年5月に帝京大学ちば総合医療セ

ンター・ペインセンターに着任致しました。ちば総合医療センターでは和田佑一院長をはじめのほな同窓の先生方が活躍中ですが、東京大学など他学出身の先生方も一緒に来て新鮮な思いで日々過ごしております。また、帝京大学では千葉大学とは違った医学部の様子を垣間見て興味深く思っております。帝京大学着任前には1年程でしたが国保旭中央病院のような第一線の市中病院で働く機会があり、貴重な体験が出来たと思っております。自分が研修医の頃には大変な病院には行きたくないなど思っておりましたが、全国から旭に集まって来る初期研修医と接していると、こういう病院で研修し切磋琢磨するのも良いものだなと思えました。ちば総合医療センター・ペインセンターはしばらく休診していましたが、私の着任で再開致しました。当院は高度先進医療を行う大学病院であると同時に地域医療の中核を担う基幹病院でもあります。千葉大学医学部附属病院並びに総合病院国保旭中央病院での臨床経験を生かして、ペインクリニック外来にて慢性疼痛、癌性疼痛の治療にあたりたいと、千葉大

学での基礎研究の成果を臨床応用出来るように研鑽に努めて参りたいと思っております。私は学生時代に水泳部におりましたので、毎年水泳部のOB・OG会では同窓の先生方と顔を合わせることがしばしばあります。今後とものほな同窓会の先生方にはお世話になることと存じますが宜しくお願い申し上げます。

**東京医科大学**

**耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 客員教授**

吉原 俊 雄 (昭53)



平成28年11月1日付で東京医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野客員教授を拝命いたしました。千葉大学を卒業後、耳鼻咽喉科学教室に直ちに入局、千葉大学、千葉大学関連病院の千葉労災病院、旧国立千葉病院、成田赤十字病院を経て、米国ベイラー医科大学留学、松戸市立病院部長、東京女子医科大学教授時代を通じて同窓会員の皆様には様々な局面でご支援をいただいております。東京医科大学耳鼻咽喉

ないが、相手は自分の事を知っている事が多くなってきました。水泳部の後輩からも実は自分も水泳部だったとしばらくしてから聞かされる事がしばしばあります。今後とものほな同窓会の先生方にはお世話になることと存じますが宜しくお願い申し上げます。

**地域医療機能推進機構(JCHO) 船橋中央病院**

院長 横須賀 収 (昭50)



2016年4月1日付で高橋誠先生の後任として、JCHO船橋中央病院院長に就任致しました。千葉大学医学部在職中、のほな同窓会の先生方には大変お世話になりました。この紙面をお借りして、心より御礼を申し上げます。当院は昭和24年に社会保険病院として、船橋駅と西船橋駅の約中間にあり、開院以来約70年東葛地域の

東都文京病院に在籍しておりますが、千葉大学卒業生が私以外に4人おります。卒業後他大学に入局された後入職、東京ののほな会でも把握していなかった先生方が多いことに改めて驚いています。現在私は東京ののほな会と千葉大学ののほな同窓会の両方の組織の副会長を拝命しておりますが、東京ののほな会伊藤達雄会

長、理事の先生方と協力して在京の勤務医、診療所の先生、行政に携わっておられる多くの同窓会員とのネットワーク構築を目指しております。東京ののほな会と平行して千葉大学ののほな同窓会の活性化のために、さらに努力していく所存であります。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

医療に貢献して参りました。現在は、464床の病院として、内科、外科、整形外科はじめ17科ありますが、多くの科は千葉大学からの応援を得て診療に努めております。当院の院長は、村沢貞雄(昭6)、角田富雄(昭13)、武田清一(昭22)、大久保春男(昭28)、藤本茂(昭32)、久満薫樹(昭40)、高橋誠(昭46)先生と歴代ののほな同窓の先生方が就任されております。平成26年4月からは、上部団体であった全国社会保険連合会が、他の厚生年金病院のグループや船橋市海神の地に設立され、船橋市海神の地に設立され、開院以来約70年東葛地域の

域医療機能推進機構に改組され、当院もその傘下となっております。内科においては血液、呼吸器、消化器などがあり、血液内科(深澤元晴副院長、昭63)は、当医療圏唯一の血液疾患センターとしての役割を果たしています。また、呼吸器(小島彰診療部長、昭62)では、肺がんや呼吸器疾患の治療が行われ、特殊感染症患者用に4病床が県から指定されております。また、消化器(加藤佳瑞紀部長、平4)では、肝炎や肝癌、内視鏡治療を積極的に行なっています。救急科(大塚恭寛副院長、昭63)は、2.5次救急として積極的に患者を受け入れています。外科(小笠原猛部長、平4)では、主として消化器、肝胆膵手術、小児外科手術を手がけております。また、整形外科(山下桂志部長、平5)、眼科(五十嵐祥了部長、平2)、放射線科(根本和久部長、昭62)、麻酔科(桜井康良部長、平元)、泌尿器科(宮本憲生医長、宮崎大平15)も、活躍中です。また病理診断科(小松悌介部長、昭60)は、帝京大学をはじめ種々の大学やセンターと共同で診断を行っております。現在当院には4つのセンターがあり、平成17年に設

立された周産期センター(加藤英二センター長)は、母体搬送件数が千葉県で断トツの一番であり、千葉県の周産期死亡率の低下に寄与していると自負しております。健康管理センター(吉川信夫センター長、昭58)では毎年3万件を超える健診や人間ドックを行なっています。内視鏡センターでは1年間上部・下部消化管内視鏡を約11000件、その他胆膵内視鏡、内視鏡的粘膜切除術や粘膜下層剥離術を数多く行っております。インプラントセンターでは歯科口腔外科の高橋喜久雄副院長(日本大衛・昭53)の下、年間約200人の患者さんが受療され、その技術力は高い評価を得ています。また、当院は厚生労働省認可の臨床研修指定病院になっております。現在医科研修医が5名、歯科研修医が2名当院で学んでいます。臨床医としての心構え、協調性、そして基本となる手技の習得は当然のこと、さらに深めてリサーチ・マイニングの醸成にも力を入れて参りたいと思っております。今後とも、病院をあげて地域医療の推進に邁進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 千葉県こども病院

病院長 星 岡 明 (昭58)



平成28年4月より千葉県こども病院病院長を務めております。日頃よりご指導ご支援をいただいております。すののはな同窓会の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

私は昭和58年に千葉大学医学部を卒業し、当時中島博徳教授が主宰されていた小児科学教室に入局しました。千葉大学医学部附属病院、君津中央病院で研修の後に免疫アレルギー班に入り、河野陽一現名誉教授、下条直樹現教授のもと、免疫学、アレルギー学の基礎と臨床の研鑽を積みました。当時、神戸大学に移られていた徳久剛史現学長、幡野雅彦現教授からご指導いただく機会を得ることもできました。その後学位を取得し、東京都立墨東病院、千葉市立海浜病院を経て、平成14年より千葉県こども病院に勤務しております。

千葉県における小児医療の中枢的役割を果たすことを目的に、一般医療機関では対応が困難なこどもの病気の診断と治療およびそれに付随する相談と指導を行う小児専門総合医療施設として、昭和63年10月に開設されました。現在は、内科系12科(感染症科、代謝科、内分泌科、遺伝科、血液・腫瘍科、腎臓科、アレルギー・膠原病科、循環器科、神経科、精神科、小児救急総合診療科、新生児・未熟児科)、外科系11科(小児外科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、泌尿器科、心臓血管外科、皮膚科、歯科、産科)、中央部門5科(集中治療科、麻酔科、リハビリテーション科)、放射線治療科、病理診断科)をそろえ、約90名の医師、約320名の看護師など約600名の職員で、周産期センターを含めた224床の病床にて、小児専門医療に取り組んでおります。約50名の医師が千葉大同時であり同窓会の皆様には医師派遣につきましてはご配慮をいただいております。また、

患者紹介にあたりましては、地域のクリニック、病院の先生方にはたいへんお世話になっております。心よりお礼を申し上げます。

今年度から病院の基本理念に「その子らしく、その子のために」というキーワードを加えました。当院には、さまざまな疾患、さまざまな背景をもつこども達を紹介されてきます。目の前のこども達とご家族のために、自分たちは何ができるか、何をすべきかを常に考え、多くの職種の職員が協力して、こどものことを第一に考える医療、安全・安心の医療、質の高い医療を提供することを目指しています。

開院から28年が過ぎ、地域の医療環境、小児の疾病構造なども大きく変わりました。しかし、当院が千葉県における小児医療の中核的役割を果たすべき病院、模範となるべき病院であることには変わりありません。繰り返しのことですが、これからもこどものことを第一に考える医療、安全・安心の医療、質の高い医療を提供するために職員一同努力してまいりますので、同窓会の皆様には益々のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 猪之鼻奨学会便り

### すののはな同窓会・千葉医学会と共に歩む 情念の志に捧ぐ篤志の力

猪之鼻奨学会会長 鈴木 信 夫 (昭47)

宇宙広しといえど、唯一、この大地にのみ存在すると思ふ。未だ考えられる生命、そのいのちの不思議さに挑戦する無我・無私の学徒。その生徒の集う亥鼻で、研究補助や学資の貸与などを100年近く継続してきた団体、それが、猪之鼻奨学会です。本会における紆余曲折の歴史については、ホームページ(<http://www.mchiba-u.ac.jp/zaidan/index.html>)をご覧ください。創設時、あるいは活動継続の経緯を窺い知ることが出来ます。また、95年前に設立された千葉医学会や65年前に活動の基盤となる会報の創刊をなした得たるのはな同窓会との関連も記載されております。なお、現在は、本会が支援した研究内容の成果報告書を千葉医学雑誌に掲載させていた

だき、本会が20年前に創刊し毎年1回発行している奨学会報を、例年5月頃発行するのとは同窓会報紙と共に同封発送させていただき、さらにのとはな同窓会から寄附をいただいております。

ところで、無我・無私の学徒が活躍するはずの場、大学の中身が様変わりしつつあります。亥鼻のみならず、全国においてです。各種の報道にありますように、運営費交付金の減額などです。予測されてきた事態とは言え、産官学一体の科学推進策は、より一層強まっております。実験データを10年、20年という間練り直し、ようやくして発表する」という筆者の若い時代の様相は一変しております。というのも、科学研究費補助金採択率は殆ど変わっておりません。申請者5名あたり約1名の採択においては、華々しい姿を求められます。たとえ科学研究費を取得できても、給与のおよそ半分を研究費用へ支出しなければならなかった筆者の若い頃の経験が再来しないことを願うばかりです。

さて、以上のような状況下で、医学・薬学領域における本会の研究助成の意義が増大しております。過去に同様な研究助成金制度を有していたのはな同窓会において、その制度を廃したこともあり、な

おさらです。ただし、残念ながら、一件あたりの助成金額(30万円)は少額です。しかし、個人が研究活動を継続する上で、助成金を授与されたことは、貴重な経験となります。是非、助成金額や助成件数の増加を期したいものです。

一方、医学部や薬学部の学生、あるいは医学・薬学府の大学院学生への奨学金貸与も本会の重要な活動です。しかも、公益財団なるが故に、研究助成も含め、千葉県下の大学に所属する人々への支援をしております。実際、すでに、千葉大学以外の方々へも助成ないし貸与をしてきております。

では、本会の活動資金はどうなっているかです。ゼ口金利時代、もはや、財団基金の運用による金利からの支出は不可能です。事務室をのとはな同窓会と千葉医学会との同室にし、効率化を計っておりますが、やはり、篤志の力を必須としております。研究志向する教官とその熱き教育の百花斉放なる亥の華に寄り添う猪之鼻奨学会に、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。(寄附のお願いを23面に掲載)



猪之鼻奨学会事務室は、旧のとはな同窓会館(左)より新のとはな同窓会館(右)へ転居しております。

最終講義

# 千葉大学での内視鏡下経鼻下垂体手術の発展の歴史

## — 恩師・仲間へのお礼を含めて —

脳神経外科学 佐伯直勝 (昭50)



千葉大学脳神経外科学教授の11年間の任期を、平成28年3月をもって無事終えました。多くの人たちに、支えられ助けられて初めてなしたという気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

千葉大学脳神経外科は、1970年創設され、以来45年の歴史を持ちます。初代の牧野博安教授は頭部外傷を、2代目山浦晶教授は脳血管疾患、私自身は良性脳腫瘍をテーマとしました。

当施設は専門性の高い脳神経外科疾患を含めて診断治療できる全国でも有数の治療グループ、専門医療機関であると自負しています。

それぞれの特徴、専門性をもって診療、研究にあたる10人の教官らと関

連施設の頑張りのおかげで今があると思います。在任した11年間で振り返ってみますと、対象の神経外科疾患の多様化、変化、社会の医療に対する安全性への要望の高まりなど、その医療・診療背景の多いなる変遷を感じ、その中で大過なく医療が行えてきましたことにほっと安堵しております。

この在任機関に大切と感じたことは、良い仲間を作ることです。そして、なにか仕事をしようとする、それに加えて、周りの医療環境や技術の進歩などが関わってくるという事です。私が専門としている経鼻手術で説明したいと思えます。今でこそ、大きな下垂体部腫瘍も、経鼻的に内視鏡で行えるようになりました。ここに至るまでの、千葉大学での歴史に触れます。

私は、1988年に千葉大学で歴史に触れます。川鉄病院(現千葉メディカルセンター)で一般脳神経外科を一通りやり、この延長で人生を終えて良いのか疑問をいただき、大学の教官に戻りました。特別、テーマは決まっていりませんでした。

膜腫を経鼻的に摘出することなどは夢でした。

そこに周りの医療条件が変わる出来事がありました。経鼻手術を行う際、それまで、耳鼻科医が鼻腔部分を行い、トルコ鞍内だけ脳神経外科医といった仕事の区分がありました。

金子敏郎先生から今野昭義先生に代わり、1993年ころより脳神経外科医がこの経鼻手術の全ての手技が任せられるようになりました。そこから、どのように経鼻部分で開創すると、側方や上方の大きな病巣を摘出できるかの、脳神経外科医の模索が始まりました。

その間、耳鼻科の教室の先生方をはじめとする心広い仲間たちに、教えていただきながらの試行錯誤でした。鈴木晴彦先生、沼田勉先生に直接ご教授いただきました。

この領域では、現在も、岡本美孝先生、花澤豊行先生にお世話になっています。

その間、画像・手術器具の進歩として、1997年にJournal of Neurosurgeryに掲載されたheavily T2 weighted imaging法がありました。頭蓋内構造物の微細な観察がより詳細にできるようになりました。フィリップスのMRを有する川

鉄病院の角南兼朗部長、放射線部に全面的な協力をいただきました。これらの進歩も、より難易度の高い手術への挑戦を可能にした要因です。

そして、2000年前後から内視鏡による脳室鏡手術が登場しました。時期を相前後して、福島孝徳先生の米国への異動で、内分泌科の先生方との定期的交流もはじまりました。

寺野隆先生、龍野一郎先生、田中知明先生には、内分泌学を教えていただきました。2003年から内視鏡経鼻手術が開始されました。Caver dissectionコースの確立整備が2006年からでした。

解剖学教室、特に森千里先生、鈴木崇根先生には特別なご配慮をいただきました。

この間、脳神経外科教室の若い仲間の助けや助言は、くじけそうな私の気持ちを何度助けたかわかりません。仲間は、自分の大学にとどまりません。学会やエキスパートと呼ばれる他大学、外国の人たちと率直に交流し、見学に行き、教えあうことでした。教室でも、後進を育て仲間を増やすことが、長くその領域に携わっていくコツでしょう。自分の科外にも同志、仲間を形

成していくこともさらに重要です。他の科との交流、協調、分業、画像進歩、cadaver dissectionコース、他大学の仲間との交流、これらのことが旨く関わって今に至ります。

内視鏡下経鼻手術は大きな発展を遂げ、いろいろな可能性を感じさせてくれます。楽しい領域の一つです。私のこの経験は、どの仕事領域でも、大なり小なり共通するところがあると思います。皆様のそれぞれの領域での、ご活躍を期待しています。

最後に、この場を借りまして、私を支え温かく見守ってくださった、教室、秘書さん、医会、同門の仲間たち、他の部署の諸先輩、仲間たちに深く感謝致します。ありがとうございます。

## 内視鏡経鼻頭蓋底外科と関連領域



# 第8回世界Shock学会総会を主催して

平澤博之(昭41)

去る10月3日から5日まで、東京ドームホテルで第8回世界Shock学会総会・学術集会を主催致しました。この学会は第31回日本Shock学会総会と同時に開催で、そちらの方は本学救急集中治療医学講座の私の後任の教授である織田成人先生(昭53)が主催して下さいました。

この総会・学術集会は4年に1回開催される学術大会で、前回は米国マイアミで開催されましたが、今回はギリシャのクレタ島で開催される予定です。今回の参加者は海外の25か国から約2000名、国内から約2000名で、日本で行われる国際学会はともすれば日本人の参加者の割合が高い場合がありますが、今回は外国からの参加者の割合が高く、会場の雰囲気もまさに国際学会でした。

内容的には会長講演、特別講演2題、シンポジウム12セッション、一般演題とこう構成でした。私は「My Odyssey in Shock Research, Japan Shock Society, Shock Society of North America, European Shock Society, and International Federation of Shock Societies」と題する講演を行い、医学部卒業以来第二外科、救急集中治療医学、米国留学を通じてずっと取り組んできたショックに関する研究成果をまとめて発表しました。特別講演は本邦の代表として大阪大学の審良静男教授に「Innate Immunity and Inflammation」と題して講演頂きました。審良教授はノーベル賞候補といわれている先生で、パターン認識受容体を中心に据えた大変迫力ある講演をして下さいました。もう一題の特別講演はニューヨークにありますFeinstein Institute for Medical Researchの所長のDr. Kevin J. Traceyが「Molecular Foundation of Bioelectronic Medicine」というタイトルで、自律神経系と炎症反応のクロストークを、電気刺激を介して誘発することによる治療の臨床応用に関し講演して下さいました。大変先鋭的な内

容で、大好評でした。司会をしていた米国のDr. Buchmanが「Dr. Traceyは近未来のノーベル賞候補である」と紹介していましたが、特別講演にこの二人のノーベル賞級の演者を迎えることが出来、主催者としても大変嬉しく思いました。

国際学会につきもののシリアルイベントも色々あり、会期中は毎夕パーティーがありました。その他にもこの学会は今まで伝統的に会期中にPresidential Runと称する早朝のランニング大会があるのですが、今回は皇居一周を企画しました。早朝の緑豊かな皇居のまわり

は、私が想像していたよりはるかに綺麗で、外国からの参加者には彼らからすればエキゾチックな雰囲気なのまで走れたということで大変喜ばれました。

東千葉メディカルセンターという実質的には千葉大学医学部第二附属病院という位置づけの、全く新しい病院の立ち上げにかかわりながら国際学会の準備も行ったという状況でしたが、周囲の方々の温かいご支援やご協力によりなんとか無事この国際学会を終えることが出来ました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



会長講演中の筆者

## 人事異動

### 教授

脳神経外科学

岩立 康男(昭58)

(同准教授より)

臓器制御外科学

大塚 将之(昭63)

(同講師より)

整形外科学

大鳥 精司(平6)

(同准教授より)

形成外科学

三川 信之

(同准教授より)

イノベーション再生医学

江藤 浩之

(山梨医大・平2)

(京都大学より)

### 准教授

先端応用外科学

宮内 英聡(平元)

(同講師より)

### 講師

呼吸器病態外科学

中島 崇裕

(宮崎医大・平13)

(附属病院呼吸器外科より)

平成28年度

大学院医学薬学府

10月入学者

循環器内科学

1名

感染免疫学

1名

(真菌センター)

整形外科学

1名

麻酔科学

2名

呼吸器内科学

1名

認知行動生理学

1名

生殖医学

1名

先端応用外科学

1名

環境生命医学

1名

## ゐのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二二回(二〇一七年度)ゐのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

### 一、受賞対象者

#### ① 社会貢献賞

本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学ゐのはな同窓会に多大の貢献をした者。

#### ② 功労賞

#### 二、表彰

#### ① 社会貢献賞

(三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

#### ② 功労賞

(二件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。

#### 三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一六年十二月一日から二〇一七年一月三十一日までに申請して下さい。

#### 四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一七年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、

ゐのはな同窓会報に掲載します。

お問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、ゐのはな同窓会事務局

申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

# ものはな同窓会地区会長挨拶

## 千葉県ものはな会会長に就任して

千葉県ものはな会  
会長 秋葉 哲生 (昭50)



このたび三枝一雄先生が  
ご勇退なされたのに伴い、  
第四代の千葉県ものはな会  
会長に推挙されました。

いまから20年前千葉県  
「高齢者保健福祉推進10カ年  
戦略」(通称ゴールドプラン)  
関係の委員会委員として、  
山武郡市医師会から県医師  
会の活動に参加しておりま  
した。ある日の会議の折り  
に、当時の千葉県医師会長  
であり、ものはな会会長で  
もあられた渡辺武先生から、  
今度作る県ものはな会にも  
参加するように命ぜられた  
ことを今も記憶しておりま  
す。それ以来、渡辺武会長、  
大濱博利会長、三枝一雄会  
長の三代の治世を通じて仕  
事をして参りました。  
平成16年に、新たな研修

医制度のもとでの卒後研修  
が必修となつてから、母校  
を研修先に選択する卒業生  
が少くないということに、O  
Bとして気にかけていまし  
たが、一卒業生が懸念して  
いるだけでは何の力にもな  
りません。しかし、本学は  
明治七年にその始まりであ  
る共立病院が設立された、  
日本で二番目に長い歴史あ  
る医療機関です。ちなみに  
一番古いのは明治五年の京  
都府立医大のようです。た  
ぶん卒業生数は本学が日本  
一であるといつても過言で  
はないでしょう。それなら  
ば、ものはな会としてまと  
まれば、母校の求心力を高  
める何かが可能になるので  
はないかと考えるようにな  
りました。

ました。ひとり、またひと  
りと活動して下さる方々が  
増えて、同窓会活動の内容  
にも変化が見え始めました。  
最近では、平成十年代の卒  
業生も理事として年次総会  
の切り盛り飛び回ってい  
ます。平成28年の「亥鼻祭」  
への参加も初めての試みで  
すが楽しみにしております。  
ものはな会がこれまで培  
つてきた、先輩、後輩の堅  
い絆と親睦を大切にしながら、  
今後は時代の変化に応  
じた活動を少しずつ加えて  
いくことを希望しておりま  
す。

叙勲、褒章その他祝  
事に関係された方は是非  
非同窓会事務室までご  
一報下さい。編集部で  
も絶えず注意しており  
ますが、ニュースに接  
し得ない事態もありま  
す。お喜びはなるべく  
早く、同窓の皆様にも  
お分けしたいと思いま  
すのでよろしくお願  
い申し上げます。

# 各地のものはな会 だより

## 山梨ものはな会

平成28年度山梨ものはな  
会総会が6月30日、甲府市  
のホテル談露館にて開催さ  
れました。始めに昨年お亡  
くなりになられた大澤一仁  
先生のご冥福を祈り黙とう  
を捧げ、続いて清水天会長  
にご挨拶を頂きました。参  
加者が9人といえ会員数  
の減少(今年度30名、高齢  
化を考慮すれば良好ですと  
幹事は慰められました。



次ので赤星至朗先生の乾  
杯、ご挨拶を頂きました。  
昨年脳梗塞を発症され当初  
は箸もスプーンも持てない、  
言葉も出にくいという状態  
からリハビリを精力的に行  
われ、今ではグラスを持つ  
右手(酒の楽しみは絶対止め  
ない!)も会話もほとんど不  
自由ないところまで見事に  
回復されました。「リハビリ  
はやる気がなければダメだ」  
が心に残りました。かつて  
山梨県立中央病院の耳鼻科  
にみえた研修医でさんさん  
飲み歩いた先生らが今では  
要職につかれていますお話を  
お聞きしながら美味しく料  
理とワインを頂きました。  
またものはな同窓会常任理

事の花輪孝雄先生より理事  
会のご報告があり、最後に  
出席者全員の近況報告が行  
われ、次回の再会を約束し  
閉会となりました。  
途中小林哲先生が緊急呼  
び出しにより病院へ戻られ  
ました。第一線で活躍中の  
若い先生方の会への参加し  
やすさを幹事として工夫せ  
ねばと感じました。

写真右から  
前列：塚原重雄(昭36)、赤  
星至朗(昭34)、清水天(昭  
39)、山口正敏(昭39)、花輪  
孝雄(昭45)  
後列：細田和彦(昭58)、鶴  
田好孝(昭54)、中沢肇(昭  
52)  
右上は小林哲(金沢大医・平  
11)  
(鶴田好孝、細田和彦)

サノフィは、グローバルに多角的事業を展開するヘルスケアリーダーとして  
患者さんのニーズにフォーカスしています。

サノフィ株式会社  
〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 東京オペラシティタワー www.sanofi.co.jp

### 安房るのほな会

平成28年6月15日(水)午後7時より初夏の安房るのほな会・親睦会が、波奈に於いて開催されました。今回は君津中央病院院長海保隆先生(昭57)をお迎えして行われました。

今回の安房るのほな会は、定例総会はなく、海保先生の君津中央病院長就任記念、原久彌先生(昭34)の「山の湯を歩く」の出版記念、原先生の息子さんである原太郎先生(聖マリ医大・平3)の安房るのほな会新入会をお祝いするという名目で、会員の親睦を深めようと開催されました。

まず、出席者全員で写真撮影を行い、その後、安房るのほな会幹事長、渡辺啓治先生(昭61)から開会の辞があり、次いで、安房るのほな会会長青木謙先生(昭36)の挨拶がありました。

今回、海保先生から『君津・木更津地域における肝胆膵外科治療の現状』と題してお話を頂きました。君津中央病院の歴史から、外科手術の症例数の推移、そして病院の経営形態の変化や新たな診療棟の建設計画など、いろいろな話題をわかりやすくお話しいただき



ました。

また、原先生が今回出版された本は「山の湯を歩く」と題された昭和40年代の旅の記録です。昭和39年から昭和42年にかけて、山の中の温泉地を旅した時の記録をまとめて活字にされ、平成25年頃から地元の情報に連載されていたものです。この連載が、自分が旅に行っていたように大変好評だっ

てお祝いました。その後、みなで歓談し楽しい酒を酌み交わし、旧交を深めました。

写真右から  
前列・原太郎(聖マリ・平3)、原久彌(昭34)、海保隆(昭57)、青木謙(昭36)、本多満(昭37)  
中列・辻博勝(平2)、水谷正彦(昭52)、関谷信平(昭38)、武内重樹(北里大・昭53)  
後列・伊賀寧(聖マリ医大・平2)、林宗寛(昭60)、渡辺啓治(昭61)、天野晋(平3)、山田暁(鳥取大・昭60)  
(天野晋)

### 西千葉医師の会

西千葉キャンパスでは総合安全衛生管理機構、フロンティア医学センター、予防医学センター、教育部などに医系の教員が勤務しています。その西千葉地区で活動する医師が毎年2回ほど意見交換会を開いています。

平成28年7月28日(木)西千葉割烹みどりに集まり、ささやかな懇親会が開催されました。参加者は徳久剛史学長、総合安全衛生管理機構から今関文夫先生、大

溪俊幸先生、潤間励子先生、太和田暁之先生、フロンティア医学センターから五十嵐辰男先生、林秀樹先生、川平洋先生、予防医学センターから森千里先生、教育学部から野村純先生と杉田克生の計10名の参加でした。五十嵐先生発声のもと、まずは乾杯。総合安全衛生管理機構に新たにデジタル画像検査機器の導入、西千葉でのメンタルヘルスの現状、予防医学センターやフロンティア医学センターの活動状況、学生の国際交流を

どうすすめるかなど多岐にわたる活発な討議が行われました。最後に参加者で記念撮影を行い、次回の開催を約束し散会となりました。

写真右から  
太和田暁之(平10)、五十嵐辰男(昭52)、杉田克生(昭54)、大溪俊幸(平9)、森千里(旭川医大・昭59)、徳久剛史(昭48)、林秀樹(昭60)、野村純(佐賀医大・平元)、今関文夫(昭54)、潤間励子(平4)  
(杉田克生)



DOCTOR VISION

医師の常勤求人・アルバイト求人をお探しなら  
**ドクタービジョン**にお任せ下さい!

お仕事探しのご相談は無料です!  
**0120-14-5255** (携帯可)  
受付時間: 平日 9:00 ~ 19:00  
E-Mail: doctor@nicho.co.jp

東一部上場 日本調剤グループの「医療総合人材サービス会社」  
**株式会社メディカルリソース**  
【本社】〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー15F

厚生労働省認可 労働派遣事業 労働者派遣事業 労働者派遣事業 労働者派遣事業  
厚生労働大臣許可【派遣業】 派13-010770 【紹介業】 13-ユ-010743

<全国16拠点>  
本社(東京)、札幌支店、東北支店、横浜支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、九州支店、大宮営業所、北千住営業所、立川営業所、新宿営業所、町田営業所、船橋営業所、神戸営業所、京都営業所

東京のほな耳鼻科医会

平成28年8月4日(木)に銀座2丁目のホテルモントレにて第17回東京のほな耳鼻科医会が開催されました。

第17回の企画は、本会の幹事である笠井創先生(昭52)から例年どおりアレルギー性鼻炎・花粉症の治療薬と保険医療の観点からの動向について講演いただきました。東京女子医科大学病院耳鼻咽喉科医局員からは昨年に続き、鼻閉に有用なフェキソフェナジン塩酸塩・塩酸プロイドエフェドリン錠のその後の使用経験についての講演、さらに日本耳鼻咽喉科学会で長く専門医制度委員会に関わって来られた三井記念病院耳鼻咽喉科の奥野妙子先生(現日耳鼻理事、昭52)から、今最も関心を集めている専門医制度の動向、耳鼻咽喉科における制度への受け止め方や今後の展望について有意義な講演をいただき、時期的なものもあり多くの質問が寄せられ活発な講演会となりました。

のご参加を頂きました。あのほな出身の先生、女子医大医局員、関連施設の先生方も参加し幅広い交流の場となりました。

私の挨拶からはじまり、東京のほな耳鼻科医会重鎮の神田敬先生(昭35)によるご挨拶と乾杯の発声をいただいた。

出席者の出身大学は様々ですが、あのほな関係では卒年順に神田敬(昭35)、森豊(昭37)、宮下久夫(昭38)、林崎勝武(昭44)、堀内正敏(昭45)、夜久有滋(昭50)、登坂薫(昭50)、奥野妙子(昭52)、笠井創(昭52)、吉原俊雄(昭53)、和田二郎(昭53)、諸田英夫(昭55)、永田博史(昭57)、大谷地直樹(昭58)、日野剛(昭58)、野本実(昭58)、中村宏(大阪医大・昭59)、持田晃(昭59)、伊藤宏文(昭61)、本杉英昭(昭62)、左内明子(平3)、吉田耕(平3)、岩本容武(平5)、留守卓也(平7)、小野健一(平12)、吉原晋太郎(平21)でした。

加えて女子医大医局員が参加し活発な懇親会となりました。

(吉原俊雄)



市川浦安のほな会

平成28年10月29日(土)に市川市「栃木や」で懇親会が開催され、11名が参加しました。加藤友衛支部長のあいさつで始まり、村田光範先生の乾杯の後に歓談、その後各自の近況報告がありました。皆で話をするのにはちょうど良い人数で話も盛り上がり楽しく時間を過ごすことができました。童崇正先生より、参加者を増やして会を活性化するの

には、千葉大の教授に講演をしていただくのが良いのではないかと提案がありました。童先生の中締めで会を終了しました。

写真右から  
前列：童崇正(昭43)、加藤友衛(昭38)、村田光範(昭35)、大貫忠男(昭46)、横山宏(昭34)  
後列：木村亮(昭57)、川口英昭(昭48)、森山紀之(昭48)、西野卓(昭47)、島田英昭(昭59)、篠塚正彦(昭51)  
(加藤友衛、篠塚正彦)



http://www.alfresa-pharma.co.jp

alfresa

時代が求める新たな“Unmet Medical Needs”に挑戦します

アルフレッサファーマ株式会社

〒540-8575 大阪市中央区石町二丁目2番9号 TEL.06-6941-0300(代) FAX.06-6947-1548

# ク ラ ス 会

## 三一会(昭31) 最終例会

平成28年10月15日(土)、珍しく2か月ぶりの快晴の夕べ。錦糸町駅近くの東武ホテル・レバント東京にて開催された。参加者は21名、会員15名、奥様6名である。参加者が高齢化のためか最近減少傾向にあり、3年前に例会の継続についてアンケートを取ったところ、

①卒業60周年迄：10名②出席が10名以下になるまで：4名③回答なし：10名、という結果となり今回は卒業60周年に当たるため最終例会となった。

開会の直前に、写真室で記念写真を撮り、午後6時、松丸信太郎君の司会で開会。まず、49名の物故会員へのご冥福を祈り黙祷を捧げた。次に、北川定謙君により、会員のご健勝を祈り、シャンパンで乾杯した。次に、事務局の小野清四郎より会務報告。現会員は31名(当初81名、物故会員49名。その内この2年間で物故者となったのは14名、不詳会員1名である。)

次に、先般ののりな会報に報道されたごとく、わ

が上原すゞ子さんには、日本化学療法学会より、本学では初めて、志賀潔・秦佐八郎記念賞を受賞されたので、お祝いに香田夫人より花束を贈呈した。その後、上原さんより謝辞があった。次に、出席者より順次スピーチがあり、皆元気が良いことを披露した。途中で、有志会員代表として北川君より事務局・小野へ、60年(特に最近20年)にわたり、

事務局としての例会の準備や後始末に関わること、また、会員の有意義な活動をなされた方の、有志と共に同窓会本部への具申のお手伝いをしていただいたことを評価されて、感謝状と記念品を授与された。これに対して、皆様の心温まるご意志を尊重して謹んでお礼を述べお受けした。



永く弥栄を祈念して、三献の手締めにて解散した。  
写真右から  
前列：上原すゞ子、井幡宏、小野夫人、小野清四郎、香田真一、水岡慶二、五味潤夫人、五味潤一  
中列：松丸信太郎、北川定謙、志村夫人、高澤五郎、香田夫人、加藤繁夫、庵原昭一  
後列：庵原夫人、徳山夫人、北川夫人、高野昇、桑原久、神尾鋭、森博志  
(小野清四郎)

## さんろく会(昭36) 秋の紅葉を温泉と 山の紅葉を楽しむ会

平成28年10月22日(土)と23日(日)、さんろく会の同窓会が新潟県湯沢温泉で行われました。幹事が新潟県に20年間住んできた経験から、都会の同窓生に新潟の米と酒、温泉と自然の美しさを体験してもらいたい、との思いで計画・立案したものです。

年齢80を超えた方々が果たして何人参加できるものか心配でしたが、予想以上に多くの33名の方が参加され、盛会でした。  
初日は温泉を楽しみ、ゆつくり会食しながら近況などを夜遅くまで語り合いま

した。翌日は朝からロープウェイで湯沢高原に上り、秋の山の自然に触れ合う日でした。今年は紅葉が少し遅れぎみで全山紅葉とはいきませんが、初めて(スキー)リフトを経験された人もいて、わずかながらでも山の雰囲気・空気を味わってもらえたと思います。ワインと昼食を見晴らしの良いイタリア料理の高原レストランでゆっくりと楽し



み、参加者の会話も非常に弾みました。  
同窓会は、年輪を重ねてきた同級生の今に、学生当時のイメージが重なり、懐かしさが込み上げてくるものでした。  
写真右から  
前列：山崎夫人、白石夫人、小池夫人、副島訓子、長谷

川幸子、岡田夫人、山角夫人、三宅伊豫子、谷合夫人、二列目：前嶋夫人、藤塚夫人、藤塚立夫、長谷川修司、岡田信道、関幸雄、山角博、青木夫人、小池宏之、加藤昌義、青木謙  
後列：野本一夫、山崎修道、吉井逸郎、谷合明、黒田健昭、白石博康、小野沢君夫、瀧澤英夫、松本生、今野夫人、今野昭義、野尻雅美、前嶋清  
(小池宏之)

開催予定の  
行事をお知らせ  
ください

学会、研究集会、のりな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせください。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月、および9月です。

三八会(昭38)

長かった秋雨とも別れを告げた10月15日(土)の午後、花の三八(サンパチ)のクラス会が帝国ホテル東京の「インペリアルバイキングサール」で行われた。ここは日本で初めて「バイキング」という食のスタイルを生み出した所だと言う。外に目を向けると空は青く、皇居の木々は緑に、お堀をめぐる石組は白く、光がややく清々しい日であった。

受付は香西襄さんとボランティアで加藤友衛さんの奥様に手伝って戴き感謝している。出席者数は5名の奥様方を含む35名である。専門課程進学時88名であったメンバーも57名になってしまったので、出席率は約61%と近來稀に見る盛会であった。しかし、残念なことにこの一年間に旅立たれた方は伊藤純一さん、尾崎賢太郎さん、寺嶋周さん、成瀬益さん、渡部浩二さんの5名であり、謹んで黙祷を捧げた。続いてスピーチと乾杯を依頼された最年長の沖田正彦さんが気を利かせて短めに済ませたのにもかかわらず乾杯の用意が整わず、間を持たせるのに司会の三木亮さんと沖田さん

の二人で苦勞をしていた。そんな一寸したハプニングも思い出の一つである。今回は、いつもは沖繩から飛んでくる嶺井進さんが欠席のため、和歌山県から参加された玉置哲也ご夫妻が最遠方であった。近い所では北村温さんが会場の近くの病院から主治医の許可を得て奥様と参加され感激であった。息子さんは出席こそなさらなかったが入室と退室時にはお手伝いに見えて暖かい雰囲気を残して早めに会場を後にした。また浅野尚さんが、作詞・谷川俊太郎、作曲・武満徹の「死んだ男の残したものは」を澄んだ声で5番まで朗読し6番をアカペラで歌った。何かジーンとくるものがあったので、後日歌詞を送ってもらった。その中から1、5、6番を紹介する。

二人で苦勞をしていた。そんな一寸したハプニングも思い出の一つである。今回は、いつもは沖繩から飛んでくる嶺井進さんが欠席のため、和歌山県から参加された玉置哲也ご夫妻が最遠方であった。近い所では北村温さんが会場の近くの病院から主治医の許可を得て奥様と参加され感激であった。息子さんは出席こそなさらなかったが入室と退室時にはお手伝いに見えて暖かい雰囲気を残して早めに会場を後にした。また浅野尚さんが、作詞・谷川俊太郎、作曲・武満徹の「死んだ男の残したものは」を澄んだ声で5番まで朗読し6番をアカペラで歌った。何かジーンとくるものがあったので、後日歌詞を送ってもらった。その中から1、5、6番を紹介する。

- 1. 死んだ男の残したものは  
ひとりの妻とひとりの子ども  
他には何も残さなかった  
墓石一つ残さなかった
- 5. 死んだ彼らの残したものは  
生きてるわたし  
生きてるあなた  
他には誰も残っていない  
他には誰も残っていない
- 6. 死んだ歴史の残したものは  
輝く今日とまたくる明日  
他には何も残っていない  
他には何も残っていない

楽しい時の経つのは早く、アツという間に写真撮影をして解散する時間になってしまった。昨年だったか「クラス会をどうするか? やめるのも一案」など話題になったのが夢のよう。今年は「来年また会いましょう。幹事さん頑張つて!」のエネルギーも戴き嬉しいかぎりである。外出は寿命を延ばす秘薬であり、今回欠席の方々も次回は是非参加してほしいと願っている。それには利便性があり、ユックリ時間の取れる場所選びなど幹事一同、鬼を笑わせる来年度の企画に向けて始動開始である。請うご期待! なお、写真撮影前に北村ご夫妻、若新政史ご夫妻が退出したので、残念ながら写っていない。

写真右から  
前列: 谷修一、木下昌、楯

二朗、大津裕司、村山憲太、長山忠雄  
二列目: 大木夫人、玉置夫人、木下敏子、大木勲、野本(故人)夫人、栗原伸夫、蘭部和子  
三列目: 寺島市郎、浅野尚、佐藤裕俊、三木亮、沖田正彦、原(故人)夫人  
最後列: 藤本重義、玉置哲也、熊田正義、宮下久夫、加藤夫人、鳥羽剛、香西襄、加藤友衛

(木下敏子)



417会(昭41年入学または昭47年卒クラス会)開催のお知らせ

日 時: 2017年(平成29年)1月22日(日)  
午後3時~午後6時

場 所: ホテル ザ・マンハッタン  
(JR京葉線 海浜幕張駅 下車)

2階 ライブラリー

参加費: 15000円(宴会費、写真代、通信費、など1名分)

オプションナールプラン(小雨・小雪決行、無料)

集合時間: 午後12時半

場 所: 亥鼻キャンパス新築のはな同窓会館  
(医学部前バス停より徒歩1~2分、附属図書館脇)

内 容: 同窓会館内展示パネルの見学  
午後1時までに附属病院へ移動し、見学および受診ないし患者紹介案内の説明会

午後2時に附属病院前よりホテルマイクロバスにて、ホテル ザ・マンハッタンへ

出席可能な先生は、以下の口座に参加費15000円をお振込みください。

京葉銀行船橋駅前店

普通預金 口座番号 9330761

口座名 鈴木信夫

ゆうちょ銀行(郵便局)

口座番号 00280151136619

口座名 鈴木信夫

また、参加費送金済み連絡と、オプションナールプランへの参加の有無を長尾啓一(メール: knagaoe@gmail.com)までお知らせください。

### 昭和41年卒クラス会 卒後50周年を開催

昭和41年卒の42名が平成28年10月29日(土)に千葉市内でクラス会の会合を開きました。14年前に徳島に集まって以来の久しぶりです。今回は、卒業後50年目という事で、できるだけ多くの参加を得たいと考え、4月ごろから企画し、開催時期や時間、場所、イベントなどを、クラス全員へのアンケートなどで調査したうえで決定しました。おかげで、健在で連絡のつく74名の内42名(57%)の参加となりました。沖縄や徳島からも来てくれました。また、マレーシアからの鄭振義君の参加には感動しています。

卒後50年ということは、最も若くして入学した者でも今年度中に75歳の誕生日を迎えるという、本格的な高齢者集団の仲間になったことを意味します。私たちのクラスは、入学の年に60年安保闘争があり、卒業の年はインタン闘争とそれにかかわる国家試験ボイコット、その2年後には学園紛争と、騒乱の時代を過ぎました。また、その後は高度成長の波の中、急速な医療需要の増大に少ない戦



力に対応すべく、厳しい労働環境を凌いできました。辛いなことに41年卒業者の88%にあたる74名が健在で、その大半が今なお、診療業務その他に現役で従事しています。ただ、健康状態が許さず、参加を望みながらも断念するという通知をくれた仲間も多く、わが身の状況に照らし合わせても、老いを悟らずにはおられません。また、この会の企画中に、鬼籍に入られた方が2名あります。4月には「楽しみにしています」と便りがあった後のことでした。慎んで冥福をお祈りします。パーティーは千葉ポルトタワーの脇にある、イタリア料理Porto Italianaのデイナータイムを借り切って行いましたが、それに先立って、時間の都合のついた18名で亥鼻キャンパスの散策をしました。50年前と全く変わりのないたたずまいの医学部本館を出発点として、我々の入学時に竣工した85周年記念講堂(学園紛争で過激派が占拠して、一時は荒れ放題になっていたものが、立派に修復されて、当日は東医体の運営会議が開かれていました)、モダンに新築された同窓会館、図書館(亥鼻分館)、移転してきた薬学部の高層ビル、入学したこ



ろは我々の背丈ほどしかない若木だった連絡道路の桜の太木を見て、附属病院の新しい外来棟まで、一時間をかけてゆるゆると歩きました。

Porto Italianaでのパーティーは、料理の出し方に不手際があったものの、会場が借り切りとあって、気楽に語り合い近況を披露しつつ、2時間のパーティーを終えました。また、おののはな同窓会から提供された、卒後50周年記念のメダル(写真)と感謝状が参加者全員に配布されました。

会の合間に、近いうちにまた開きたいとの声もありましたが、思いは同じでも、実現はなかなか簡単ではないと考えています。なお、パーティーの初めに参加者全員で合意したことですが、クラス会の開催ごとに出た余剰金が30万円あまり蓄積されているので、その大半をののはな同窓会に寄付することにしました。同窓会の事業に役立ていただければ幸いです。

写真右から  
前列・小林伸行、茂木富美子、那須武

二列目・花井透、鄭振義、神谷努、平澤博之、武井孝達、三枝俊夫、里村洋一、金元良人、関根務、真栄城尚志

素晴らしかったと皆さん満足したようです。午後4時には長岡のホテルに戻り、6時にはみんな揃って写真撮影。当地では一人幹事の星山が司会者も兼ね開会の挨拶をし、次いで昨年長野松代町での同窓会の2ヶ月後に急逝された細井湧一君と伊東範行君の黙祷後、代表幹事の西島浩君よりこの一年間の経過報告。その後角田洋三君が日頃はシャイなのだがと断りつつ、ユニークで楽しい角田節を披露後「チーア」と乾杯の音頭をとりました。晚餐はシャンパンで乾杯後、スペインワインと共に、オードブルバリエ(佐渡銀鮭のスモーク、アサリのマリネ、フォアグラテリーヌ、パルム産生ハムフルーツ、オリブ、セミドライトマト)、雪室熟成ポテトの冷製スープ、出雲崎産鮮魚のソテー香草風味、牛ヒレスステーキトリフソース、佐渡ヨーグルトジェラートといった新潟の味が中心の洋食フルコースを味わいました。

### 獅子の会(昭44)

昭和44年卒同窓会(獅子の会)は、柏崎市在住の星山圭鉦が幹事となり、新潟県長岡市ホテルニューオータニで、7月17・18日の連休に行われました。同窓生は30人が参加し、奥様同伴が11人で総勢41人の盛会になりました。14人のゴルフ組は前日ホテルに泊まり、17日早朝に柏崎カントリークラブに向かいました。前半は雨降り後半は回復という梅雨明け前の天候でしたが、日本海や佐渡島を眺めることができ、ゴルフコースも

会は出席者全員の近況報告で盛り上がり、公職をリタイヤした者、診療所を継続、閉鎖の準備をしている者と多彩でしたが、地域医療にまだまだ貢献している様子がうかがわれました。

「バンカラでこだわりのない  
明朗闊達なクラスでありな  
がら、人間的な優しさが伝  
わってきていい。私たちの  
会ではこういう風にはなら  
ない。雰囲気がまったく違  
う」とは、後輩女医さん2  
人の感想です。ホテル内に  
あるカラオケルームに移動  
して年齢相応の曲が流れる  
中、一年経ったのが嘘のよ  
うに、和やかで楽しく暖か  
い時間が流れました。

翌日のオプショナルツア  
ーでは、晴れて蒸し暑い中、  
18人がバスで柏崎刈羽原発  
へ出発。原発が如何に事故  
防止への万全の対策をして  
いるかをこれでもかと5分  
の1モデルで流暢に説明す  
るガイド嬢に鋭い質問で立  
ち往生させる場面もあり有  
意義な見学となりました。

この後は、ホテル100  
選に入った柏崎の「岬ひと  
ひら」で昼食をとり長岡へ  
向かいました。駅から近い  
河井継之助記念館、山本五  
十六記念館を散策された方  
もおられました。

来年は第2回目の台湾で  
の同窓会を予定しています。  
写真右から

前列・内海夫人、吉井田美  
子、高橋容子、中林清美、  
浅野武秀、奥村康、角田洋  
三、佐藤政教、吉井與志彦、  
星山圭敏



二列目・東山都紀、奥村夫  
人、西村則之、東山義龍、  
橋場永尚、中川邦夫、渡辺  
孝太郎、土川秀紀、間山素  
行  
三列目・渡辺義郎、吉田操  
星山夫人、浅野夫人、吉田  
夫人、堀江夫人、堀江弘、  
西島浩

四列目・渡辺(孝)夫人、篠  
原夫人、高橋秀禎、佐久川  
輝章、内海武彦、西島夫人、  
中川夫人、土川夫人  
最後列・篠原義賢、田沢洋  
一、山本夫人、山本健介、  
坂本建彦  
(星山圭敏)

51会(昭51)  
卒後40周年記念会

2016年9月17日(土)、  
東京ステーションホテル「陽  
光」において、1976年  
3月卒業同期生の卒後40周  
年記念会を開催した。

1970年入学の同期生  
の中には様々な道を歩ん  
で来た者があり、年長者と年  
少者とは10歳近い開きが  
あった。高等学校からスマ  
ーズに入学したものは少な  
く、大半がここ1年の間に  
退職の時期を迎えることと  
なった。

記念会には特別な企画を  
せず、参加者全員が自由に  
スピーチをする形式とし話  
題は多岐にわたった。人生  
の大きな節目に当たり、誰  
もがこれまで大過なく歩む  
ことのできた達成感と新た  
な一歩を踏み出そうとする  
期待感にあふれているよう  
であった。

記念会は2時間ほどであ  
ったが、全員が笑顔を決  
すことなく和やかで楽しい  
ひとときを共にすることが  
できた。管理職としての重  
責から解放された安堵感が  
にじみ出ているようであつ  
た。また今後の処し方を熱  
く語る姿は、40数年前の「ひ  
かり輝く新人生」にどこか  
似ているようにも思われた。

当初およそ100名であ  
った仲間も病には勝てず、  
すでに9名が故人となつて  
いる。今回も2016年4  
月に逝去した白幡真知子さ  
ん(Johns Hopkins 大学生理  
学教授)に黙祷を捧げた。

なお、開会の乾杯は佐藤  
兼重君(千葉大学形成外科学  
教授を退任)、閉会は高橋和  
久君(千葉大学整形外科学教

授を退任)が担当した。また  
幹事は前回の門山周文君・  
菅井桂雄君から大須英夫・  
小野和則・小野元子が引き  
受け、次回の井坂茂夫君・  
川村健二君・内藤仁君に引  
き継いだ。2年後の再開を  
期して解散とした。

写真右から  
前列・皆川秀夫、村松幸男、  
小松健祐、高橋和久、菅井



千葉大学医学部51会 卒後40周年記念会

第6回 52会総会報告

平成28年10月16日(日)、  
東京新橋の第一ホテル東  
京・バンケットホール「プ  
リマベール」において第6  
回52会総会が開催されまし  
た。52会は学年横断の会で、  
忙しいなか46名の出席者が  
集まり、久しぶりの懐かし  
い仲間との活発な会となり  
ました。  
冒頭、残念ながら亡くな  
られた北澄忠雄君、広岡昇  
君に対し哀悼の意を込め参  
加者全員で謹んで黙祷を奉  
げました。

桂雄、佐藤兼重、田中晶子、  
蒔田順子、伊古田裕子、小  
野元子  
二列目・大須英夫、セレス  
ター・ラマドーザ、中村  
千里、門山周文、田中健、  
檜山幸孝、尾世川正明、柳  
沢孝夫、縄田泰史、小野純  
一、小野和則、丹羽公一郎  
三列目・平井康夫、大山欣  
昭、坂本薫、寺野隆、山本  
俊樹、塚本剛、武田憲夫、  
児島孝行、宮本茂樹、川村  
健二  
最後列・蒔田国伸、林春幸、  
井坂茂夫、姫野雄司、永栗  
清人、内藤仁、篠塚正彦、  
高瀬利男、西本良博  
(小野和則)

経費削減から、これまでは立食のバイキング形式でしたが、今回、互いがおちついて話せるようホテルと交渉し、着座してのフランク料理を格安で提供してもらうことができました。

乾杯の音頭は、受付開始1時間前から待機されていた深谷市在住の四元徹志君にお願いし、会が始まりました。恒例の大学の現状は、千葉大学フロンティア医学センター長 五十嵐辰男君から報告がありました。大学病院の外來診療棟、東病棟の立派なこと、吹き抜け部分はTVドラマのシーンにも使用されていることには、みなさんから驚きの言葉も聞かれました。そして、OP室が改装され、ハイブリッドORが導入、整備されたことは大学のさらなる発展を期待させるものでした。

出席者からの挨拶、近況報告は会を重ねるごとに自らの病状報告が増えてきた感があります。それでも、現役で各々の立場で活躍していることが再確認されました。高度最先端医療に取り組まれている大学その他研究機関の研究者から、中核病院で外科医として現役で活躍する人、増える一方の老人医療に向き合い、時

間制限のない勤務を続ける人、過疎地での地道な地域医療に取り組まれている人など苦労話はずきません。定年間近でも悠々自適の人はおらず、まだ医療とかけ離れた生活を送るには早そ

うです。出席できない人からのメッセージを一部紹介します。「遠方のため翌日の診療に支障をきたす」「専門医制度のありによる人手不足」などがありました。獨協医科大の堀雄一教授は「まだ当直勤務をこなしている」など日本の医療システムの暗部を垣間見るようでした。今後の在り方として、遠方のため出席がかなわなかったとの意見から、翌日の仕事を考慮した日程にすべきであること、開催を3年毎から2年に短縮する案が出されました。今後、幹事会で検討する予定です。

毎回のことですが、一次会だけでは話が尽きず、2階カフェバー「トラックス」にほとんどの人が移動し、二次会になりました。より近く座り、会話も昔話から孫の自慢話に花が咲き、さらに盛り上がった会になりました。会を終えてみて、みなさん確実に年を重ねて指導的立場にあり、貫録と体重は



増したものの今後の医療人としての生き方を考える年にもなっていることがよくわかりました。いづれにせよ、次回開催日にも元気で再開できるように互いに健康に留意して治療に励むことを誓い散会となりました。

写真右から  
前列・香村(片山)玲子、笠井みさ子、今泉照恵、村野(水谷)早苗、鈴木孝雄、古川斎、松前孝幸、堀部和夫、國枝寛、川俣泰男、山縣正庸  
二列目・兵頭明夫、宮尾陽一、湊明、升田吉雄、島上

實、遠藤文夫、奥野(石井)妙子、木村正幸、水谷正彦、石橋勇貴、小林純、須田純夫、香村衛一、山田善重、富沢正昭、安田敏行  
三列目・川田崇雄、後藤雅博、椎原秀茂、松岡明、岡本和美、四元徹志、寄藤和彦、寺井勝、稲田晴生、中沢肇、田中幹雄、青柳栄一、福田利男、高田俊一、五十嵐辰男、高山順、高橋敏信、磯辺啓二郎、小林彰  
(文責 古川 斎)

それからの五十六  
それからの会(昭56)

171号(2016年1月号)同窓会報に、卒業35年目で初めてクラス会便りが出ましたが、一年でまた寄稿することにになりました。それと違うのも、同期の道永麻里さんが藍綬褒章を受章し「麻里さん受章お祝いを肴に呑もう会」開催の機運が盛り上がったためです。平成28年(2016年)7月2日(土)午後6時から、急なメール連絡だけだったにもかかわらず25人が今回も帝國ホテルに集まりました。麻里さんも、前週に日本医師会常任理事に再選されて超御多忙の中を駆けつけてくれました。ただ、申し訳な

趣旨通り? 教養・常識不足の大多数の者にはありがたみが分らず、御本人が遠慮がちなことあつて、結局ただの宴会と大して変らなくなつてしまいました(笑)。今回もメインは近況報告で、既に亡くなられた賀陽濟さんの夫人を含め、全員があれこれ面白おかし話を続けました。56卒はこの年度までに全員が還暦を迎える計算ですが、国内で海外でも活躍する方、組織の運営に苦労する方、介護や教育に四苦八苦している方、それぞれに転機が近づいている印象を受けました。次回を開催する名目も、すぐに見つかるのかもしれない(苦笑)。今回も有志が同ホテル内の二次会に移動し、話は尽きませんでした。なかなか連絡が取れなくなっている方がこの記事を読まれたら、是非御一報を頂



きたいと思っています。

写真右から

前列・瀧口正樹、細井孝之、道永幸治、道永(竹内)麻里、福武敏夫、石井猛、縄野繁、江澤里花子

二列目・岡陽一、森石丈二、細井夫人、川野裕、福井博行、吉川正治、伊丹純、佐藤二郎

三列目・松本俊一、中村達雄、中澤亨、賀陽夫人、伊藤隆、松本夫人、中島透、窪澤仁、川副泰成

(漱石YK)

### 昭和61年卒同窓会

卒後30年の節目の同窓会の出席者は66名と盛況で、まるで30年の年月がなかったような感覚にとられませんでした。一人一人の近況報告だけで1時間半近くを要したのもあって、ホテルザマンハッタンでの3時間では飽き足らず、近隣の二次会にも37名が参加して語らい、次回同窓会での再会を約して散会となりました。写真右から(すべて旧姓)前列・高谷美成、林偉明、新本和英、ルブランカトリース、井上真美、内柴三佳、井上知子、榎本哲郎、花崎光子、長竹直美、与那覇文子、安達智江、石田厚

二列目・坪井義夫、川島辰男、端追清、稲垣智一、石井浩、香川晃太郎、渡辺栄、林和彦、小林英一、豊口透、小室裕造、黒澤俊介

三列目・渡辺隆、種市洋、村松俊範、三浦信之、渡辺啓治、加藤直也、神谷尚志、三上繁、長谷川雅彦、高野英行、徳山芳治、橋本敏、菊地浩之、中田暁、清水宏明、寺内隆司、下田直史

最後列・園田昌毅、進藤寛、福長徹、夏木豊、郷地英二、村上康二、芹澤徹、真々田一浩、畑芳春、西脇哲二、佐藤晴彦、貝沼修、古関明彦、中村全、結城崇夫、小森章

寿、吉川京燦、小田健司、沢田貴志、村上尚、滝澤義和、古谷雄三、西堀知行(林偉明)



### 平成2年卒同窓会

平成28年2月27日(土)に平成2年卒業生の同窓会を開催いたしました。今回は、平成28年1月に千葉大学大学院医学研究院薬理学教室の教授に就任した安西尚彦君の祝賀会ということで、千葉大学医学部創設135周年記念の新しいのはな同窓会館を会場としました。参加者には久しぶりに母校を訪れたという人も多く、「大変懐かしい」「随分新しい建物が増えて変わったなあ」等の声が聞かれました。参加者は一次会36名(写真と、二次会から参加の3名(神戸敏行、鈴木啓悦、丸山紀史)を合わせて計39名で、大変楽しく、賑やかに旧交を温めることができました。

一次会では、乾杯としばしの歓談の後に、安西君の教授就任挨拶があり、代表数名から花束とお祝いの言葉が送られました。我々にとって、薬理学といえは学生時代に厳しい教えをいただいた村山智先生のことか思い出されるわけですが、自分たちの同期があつた村山先生と同じ立場となるとは感無量である、といった意見がありました。安西君は、北里大学、獨協医科大学(プ

ラス海外留学)と他施設での研究生活で主にトランスポーターに関する業績を築き上げ、千葉に戻って来てくれました。千葉大学だけでなく外の世界を知っていることは大変貴重であり、是非その経験を母校での研究、教育に活かして、更に活躍して欲しいと思います。

その後、指名形式でそれぞれの近況報告を行いました。皆50歳を過ぎて益々円熟味を増しており、仕事や趣味、家族、健康の話などに花が咲きましたが、酔いがまわるにつれ後半盛り上がりを見せたのは、やはり(毎回繰り返される)学生時代の懐かしい馬鹿話でありました。卒業アルバムを持って来てくれた人がおり、その中の写真と同じメンバーで同じポーズで写真を撮ったりもしました。後でその写真を見比べてみて「みんな意外と変わっていないなまたまた若い」と感じるのは私だけでしょうか?

同窓会にまめに参加して学生気分には浸ることは若さを保つ秘訣ではないかと、密かに思っています。その後二次会、そして有志で焼鳥屋での三次会と深夜まで語り合い、再会を約束してお開きとなりました。

今後も毎年同窓会が開催され、皆でまた元気に会えることを切に願いつつ、本会の報告を終わらせていただきます。

写真右から

前列・中川晃一、清水栄司、岡野田(渡辺)桂子、中里青山、道子、安西尚彦、仲野(柳田)敦子、渋谷真理子、辻博勝

二列目・安藤総一郎、小林信義、高柳建志、石和田稔彦、吉富秀幸、村越直人、

勝野達郎、小風暁、野沢聡志

三列目・田内利幸、斎藤功、岡本和久、大淵徹、浦島哲郎、鶴根実、老沼和弘、杉山宏、荒木章伸、根本俊光

最後列・秋本政秀、木下知明、小林信義、岡田吉弘、内野福生、尾辻瑞人、鈴木敏幸

左上別枠：五月女隆研究会のため集合写真撮影前に退席、太田真(写真撮影者)(中川晃一)



# 研修プログラム

## 放射線科

千葉大学大学院医学研究院  
画像診断・放射線腫瘍学

教授 宇野 隆 (昭63)

画像診断(CT, MRI, PETなどの形態・機能診断)、IVRによる低侵襲治療、そして放射線治療(高精度外部照射線治療、小線源治療およびRI治療)の分野を中心とした診療を行っています。大学病院の利点を生かし、すべての分野で最新の診療機器と若くて優秀な専門医を揃え、診療・研究・教育を実践しています。診断・治療技術の急速な進歩で全国的にまだまだ専門医は不足し、売り手市場です。留学、産・育休等で一定期間離職しても、素早くキャッチアップできる点も特長です。

放射線治療医の研修目標は、全身すべての領域における画像診断の基礎知識を身につけ、指導医のもと画像診断を通じて患者の病態を把握できるようにすることです。放射線科で研修することで、CT, MRI, PETなど最新の画像診断能力を身につけ、常にアップデートし、臨床における問題解決に画像診断を自在に使いこなせるようになります。読影レポートの作成、学内外のカンファレンスを通じて、自然と論理的思考力、プレゼン力が養われます。各診療科の専門医とは異なる視点で画像を読み解く特殊な力が培われ、誰もが気づかないような所見から思わぬ疾患・病態を拾い上げ、患者を最適な治療に導く能力が身につきます。

放射線治療医の研修目標は、臨床腫瘍学、がんの集学的治療における放射線治療の役割、位置づけを理解し、がん放射線治療について基本から最先端まで学ぶことです。放射線治療医として研修することで、強度変調放射線治療(IMRT)、定位放射線治療、画像誘導小線源治療といった最新の高精度放射線治療を実践する能力、そして何より、目の前のがん患者の診療に集中し、個々の疾患と対峙していく姿勢と臨床力が身につきます。

千葉大学の最大のメリットは、医大の集中する東京では体験不可能な膨大な臨床症例数です。医師として生涯で珍しい疾患を数多く経験できることです。千葉大学では画像診断の指導医は中枢神経、頭頸部、胸・腹部、乳腺、婦人科領域等のスペシャリストが揃い、学会のフィルムインタプリテーションセッションでの優勝者、UCLA留学者等も在籍します。治療の指導医は放射線腫瘍学会をリードし、日本中のリーダー達と連携しています。子宮頸癌治療、特にMRI画像誘導小線源治療ではトップクラスです。若手医師は診断部門では北米放射線学会(RSNA)、治療部門では米国放射線腫瘍学会(ASTRO)で学術発表を行っています。国内の各施設、あるいはUth大学の葛島教授等のもとで学ぶことも相談可能です。

初期研修医の先生方は、選択科として放射線科研修が可能です。卒業3年目を迎える先生方は、平成30年度からは「放射線科専攻医(従来の後期研修医)」として放射線科全般に関する専門研修をスタートします。

3年間の専門研修を行い、卒業6年目に日本医学放射線学会による「放射線科専門医」の受験資格を得ます。その後は、画像診断あるいは放射線治療の専門研修を

### 千葉県精神科医療センター

病院長・千葉大学臨床教授

平田 豊明 (昭52)

千葉県精神科医療センターは、全国初の精神科救急病院として、昭和60年、千葉市幕張の埋め立て地に開設されました。開業当時、周辺には建造物ほとんどなく、舗装道路すらありませんでしたが、今では県内で最も活気のあるエリアのひとつになっています。

2年間行い、卒業8年目に「放射線診断専門医」もしくは「放射線治療専門医」を受験します。詳細はEメールを参照下さい(<http://chanrad.kjcom.jp/>)。

開設以来、当センターは、50床という小規模病院ながら、重症の精神病性障害を主体に年間およそ400件の入院を受け入れ、平均約6週間で退院としています。退院患者のおよそ7割が自宅に戻りますが、その大部分が当センターに継続通院します。在宅ケアを支えるために、訪問看護やデイケアも実施しています。こうした診療活動は、当初、経営的には全く不採算であったため、当時は財政

精神科には、国と県が運営費用を折半する独自の救急医療システムがあります。患者の同意によらない医療行為を行うために、様々な法手続きが必要のためです。当センターは、千葉県の精神科救急システムの中で、電話情報センターの役割とともに、最終バックアップ施設としての役割を担い、全県の救急受診と入院の約4割をカバーしています。

精神科に限らず、救急患者は時代を映す鏡です。近年の人口動態を反映して、精神科救急患者には身体合併症を有する高齢者が目立ってきました。身体救急の分野でも、認知症やうつ病を伴う高齢患者が増加しています。こうした動向に必ずしも対応するために、2021年、当センターは県救急医療センターと統合・新築されます。県精神保健福

社センターも併設され、心身統合的な救急医療および災害医療の拠点となる施設が幕張地区に出現する予定です。医師としての研鑽を深めながら、世界でも類を見ない施設の構築に携わる同志を求めます。

最後に、当センターに所属するのはな同窓会員は副院長の深見悟郎(平7)です。



# 松戸市立病院

病院長 鳥谷博英 (昭57)

松戸市立病院は千葉県北西部、東京、埼玉に接した常磐線沿線にあります。613床の3次救急、小児医療センター、地域周産期センター、地域がん診療拠点病院、地域支援病院機能を有する急性期病院です。当院には29診療科が揃っており、常勤医102名の体制です。内科も一般的なものだけでなく総合診療、アレルギー、膠原病、血液、化学療法内科などもあります。小児医療センターには小児科、小児外科、新生児科のみならず、小児心臓血管外科、小児整形外科、小児脳神経外科があり恵まれた環境です。

松戸地区は大きな私立病院が多く競争が激しい状況で、救急患者受け入れは年間30000程度ですが、県境にあるため東京都東部、埼玉県南部、市外から3次救急患者も多数搬送されます。当直体制は研修医の一般当直、内科系、外科系、小児科(3人当直)、新生児科、産婦人科、救急科、神経系で各科も待機制を敷いています。

初期研修医は基幹型14名(1学年)、千葉大学との協力型4名を受け入れていきます。応募してくれる学生は地理上は千葉でも、東葛、常磐線沿線、東京、埼玉出身者が多く、北は北海道、南は沖縄まで幅広い大学から受験してくれて千葉大学が多数派ではありません。研修医からは総合診療内科、3次救急があるため幅広い患者さんを診察できること、小児科が充実していることなどが人気のようです。当院の研修プログラムの特徴は2年目の11か月は自分が回りたいように組める自由度が高いことです。一つの科を長く回ることや、様々な科を回って進路を決めることもできます。研修医当直は3人体制(最初は1年生1人、2年生2人、その後1年生2人、2年生1人)で月に4~5回の当直を多数の当直上級医に相談しながら行っています。

老朽化した病院でしたが、2017年12月に現在地から1km離れた千駄堀に600床の新病院が開院します。多くの医師に来ていただく

るよう内面的にも魅力ある病院を目指します。最後に常勤医の当院のものはな会員を紹介します。内科：(内分沁、代謝、アレルギーも含む)・木村亮(昭57)、田代淳(昭60)、時永耕太郎(昭62)、山形大)、海辺剛志(名古屋市立大・昭63)、山崎健也(平4)、松本彩子(平20)消化器内科：齋藤秀一(平元)、岡部真一郎(平2)、森居真史(平6)、武田晋一郎(平21院)、横田智生(平14)、西川貴雄(平18)、山梨大)循環器内科：福島賢一(山梨医大・平14)、高橋秀尚(昭和)大・平14)、堀泰彦(平21院)神経内科：福島剛志(浜松医大・平12)、伊藤敬志(平15)、岩井雄太(平18)、中川陽子(日本大・平20)化学療法内科：五月女隆(平2)呼吸器内科：船橋秀光(聖マリアンナ大・平6)小児科：小森功夫(昭57)、鈴木一広(平4)、松本真輔(平16)、三好義隆(平17)、岡田広(平18)外科：尾形章(昭60)、竹内男平(平7)、金子高明(福井医大・平10)、三浦世樹(平11)、神谷潤一

郎(平15)、中台英里(平18)整形外科：品田良之(昭58)、飯田哲(昭62)、河本泰成(福井医大・平2)、佐野栄(福井医大・平7)、宮下智大(平11)、加藤啓(平16)産婦人科：藤村尚代(山梨医大・平8)、海野洋一(新潟大・平9)、中村名律子(平20)脳神経外科：田巻光一(鳥取大・平4)、渡邊義之(日本医大・平15)眼科：阿部秀樹

(平13)、熊谷健(秋田大・平11)、野々村咲子(平20)耳鼻いんこう科：磯山恭子(平10)泌尿器科：北川憲一(昭60)、小林洋二郎(平2)形成外科：有川俊輔(平16)小児外科：松浦玄(平11)小児脳神経外科：宮川正(浜松医大・平5)新生児科：喜田善和(昭52)麻酔科：萬伸子(昭54)、山口翠(平15)、長谷川誠(平23)



新病院の完成イメージ

## 平成30年版名簿発行のお知らせ

このたび、平成30年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。同窓生の皆様には、名簿掲載内容の確認はがきや名簿購入の案内状を発送して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

- 名簿発行日：平成29年10月下旬
- 体裁：変型A4判(約540頁)
- 名簿価格：3,000円

名簿作成委託先  
このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト(兵庫県姫路市)に委託しております。  
株式会社サラトのホームページ <http://www.salat.co.jp>

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら、のはな同窓会にご一報ください。  
電話 (043) 20213750  
FAX (043) 20213753  
e-mail: [info@inohana.jp](mailto:info@inohana.jp)

追 悼

武田敏夫先生を偲んで

岩 崎 秀 昭 (昭51)



恩師の武田敏夫先生が去る9月12日ご逝去されました。謹んで哀悼の念を表したいと思えます。先生が亡くなられた病院は、小生が3月まで勤務していた青葉病院であったため、病院長の山本恭平先生から朝電話をいただき驚きました。武田先生は日頃より、酒たばこをたしなまず、こげた魚もたべず節制をされていました。長生きしてご自分の仕事を達成されたかったのではないかと思います。

武田先生は婦人科細胞診の開拓者のような先生で、全国的にもご高名でした。小生が医師になって細胞診を志したときは雲の上のような存在の先生でした。先生は細胞診のみならず、千葉大学教育学部に異動されたからは性教育の研究で多数の仲間を作られ、性教育の領域でも第一人者となり、千葉県性感症研究会にも多大なる貢献をされていました。

私は婦人科細胞診の仕事をするにつけ、武田先生の指導を受け、学会発表の際には毎回ご教示をいただき、いつか先生のご指導を受けなくても仕事ができるようになりたいと願っていたことと覚えています。また先生は大学時代、英語の弁論大会で優勝されたそうで、海外での発表にあたって英語のご指導を受けました。先生からは、細胞診、英語のみならず、人生の教えを受けたような気がします。

先生は車を運転されなかつたので、千葉大医学部正門近くでタクシーをひろうため道路に出てきて危険だなど心配していましたが、これからはそのようなお姿を見ることができません。まだまだ教えていただきたいこともありましたが、それもお通夜に多数の参列者が来られ、あらためて先生の偉大さを感じ取りました。

先生のご冥福を心より祈りいたします。

同窓会員のご逝去に際し、弔文の掲載をご希望される方は、同窓会本部へ原稿をお送り下さい。

雑 文 雑 談 東金の市東融仙

石 出 猛 史 (昭52)

大学の医局気付でA4版の封書が届いていた。差出人は茅ヶ崎市在住の方で、筆者と面識は無い。開封すると、ワープロで打った35ページ程の冊子と手紙が入っていた。手紙によると、地方公務員を定年退職された後、御兄弟で相談されて家系調査をされているという事である。

冊子の内容から、東金市で編纂した『東金市史』も読み込まれているようなので、既刊の書物には記述がなさそうである。しかし一つだけ心当たりがあった。千葉県公文書「医療営業鑑札交付人名表明治九年」という名簿である。この名簿の「鑑札番号四一七 小東伊左衛門 村町名川場 市東伊左衛門」とあるのが融仙氏である。この鑑札は従来の開業医を対象に、県が郡ごとに設けた洋式医学の講習所で受講し、正式の開業許可が出されるまで用いられたものである。おそらく第八大区(山辺郡)の東金町に設けられた講習所で受講され、正式の開業許可証を取得されたのであろう。『コレラ病新論』について

は、亥鼻分館から刊行された「古医書コレクション」の目録には収載されていない。明治初期千葉県の医師が著したコレラに関する書物は見出されていないので、希少なものといえよう。これらの事を記して返事を差し上げた。

明治10年(1877)東京・横浜でコレラが発生した。9月に入ると千葉県でも平郡、天羽郡、周准郡、望陀郡で発症が見られた。さらに印旛郡、葛飾郡でも流行が見られた。公立千葉病院の医師には禁足令が出されて帰省が禁止された。コレラの対応にあたるためであろう。また千葉病院の医学学校も休校となり、各郡に設置された医学講習所も一時閉鎖された。このため医学学校の第一回県費生の卒業も延期された。

この流行時鴨川では、医師がコレラで死亡した患者の「肝をひき」井戸に毒を投げ込んだ」という風説が流され、官命により同所で防疫にあたっていた医師沼野玄昌が、誤解から地元民の暴行にあい、逃げようと鴨川に飛び込んで溺死するという悲劇がおこっている。加わった暴徒十数名が逮捕され、千葉町寒川の監獄で懲役刑に服したが、獄死する者や出所後発狂する者も出たという。

この一件には伏線があったようである。橋本鍾爾氏の『沼野玄昌の生涯』(中外醫事新報1270号)によると、この前年玄昌は居住地の鍛冶職人に金を渡し、埋葬された遺体を発掘させて人体の骨格標本を作製した。玄昌は長狭郡の医学講習所で講師を務めた際にこれを供覧したという。この件で玄昌は千葉町の監獄に収監されたが、結局無罪となり、かえって職務に熱心であると褒められたという。「遺体発掘事件」という。千葉県では明治12年(1879)にもコレラが流行した。検見川町で最初の患者が発生した後、県内全域で流行した。この時の流行では、県内の罹患者数一〇七五人、死者六九五人を数えた。県の記録には現れてこないが当時玄昌氏、融仙氏と同様に、県内でコレラの防疫・診療に携わった医師が多かったであろう。

お詫びと訂正  
173号  
31頁  
長敬 ↓ 長敬  
お詫びして訂正させていただきます。

# 学 生 教 育

## ゐのはな同窓会支援

### 2016年国際交流・学生留学報告

医学教育研究室 医学部国際プログラム担当

山内 かつ代(平11)

今年度よりチーム制に基づくカリキュラム改革によりギャップチームが導入され、これまでのグローバル人材育成の取組を更に推進し、国際社会で活躍できる次世代人材を育成するための留学プログラムの益々の充実化が期待されております。

これまで医学部では海外協定校とクリニカル・クラークシップ交換留学(千葉大学臨床実習との単位互換が可能なプログラム)、研究留学、臨床見学、サマープログラム等を構築し、千葉大学との協定校である米国・イリノイ州立大学シカゴ校、トーマスジェファソン大学、韓国・インジェ大学、ドイツ・フンボルト大学医学部附属病院シャリテ、ライプツィヒ大学、中国・天津中医药大学、タイ・マヒドン大学医学部附属シリラ

ー病院のほか、卒業生の主宰するユタ大学(放射線科)、トロント大学(呼吸器外科)、カリフォルニア州立大学アーバイン校(移植外科)、ボ

ストン小児病院(脳神経画像研究)等と交流を行っており、平成28年度は新たにマラヤ大学、東フィンランド大学の学生も臨床実習生として受け入れ、派遣32名、受入9名の交換留学の実績となりました(11月現在)。

医学部プログラムの他にもIFMSA(国際医学生連盟)、AMSA(アジア医学生連盟)に加盟の学生が主体となり学生国際会議への参加や臨床実習を中心とした積極的な交流を行っております。

また、今年度はインジェ大学、スタンフォード大学、トーマスジェファソン大学の教育に携わる医師を招聘し医学教育セミナーを開催、多数の医師・教員・学生にご参加いただきました。

医学部留学を推進する中で「高い英語コミュニケーション能力」および「英語による医学知識の理解」の必要性は高く、客観試験(COHEFT, USMLE step1等)を確実にクリアすることが各国医学部留学の条件となっていま

す。医学部では、1年次から医学部在学中の留学をキヤリアプランに含めた英語客観試験の実施と対策、実践に即した英語による医療面接演習やグローバル対応能力の修得を必修授業に位置づけ、臨床留学希望者(4~5年次)を対象とした選択授業「医学英語・アドバンスト」では海外の臨床実習参加を目標とした模擬患者に対する英語医療面接、身体診察演習、症例プレゼンテーション演習を集中的

に指導しております。本プログラムを経験した本学生は派遣先大学からの高い評価を得ており、医学・医療界のグローバルリーダーとしての活躍が期待されます。今年度、留学プログラムおよび準備教育のため同窓会からの多大なるご支援を賜りましたこと心より感謝申し上げますと共に、千葉大学のグローバル化の一翼を担う本プログラムへのさらなるご指導ご協力をお願い申し上げます次第です。



トーマスジェファソン大学Dr. Spandorfer招聘セミナーにて

## 病院と街角のあいだ

— 米国救急医療の現場から —

千葉大学医学部6年 難波 俊文

2016年の4月から5月にかけて、幸運にも米国フィラデルフィアにあるThomas Jefferson University (TJU) のEmergency Departmentで4週間の実習の機会を頂いた。同科ではいわゆる「北米型ER」形式で、年間11万人超の患者を受け入れている。

実習では、ウォークインから救急搬送まで、143例の症例の診察を経験・見学した。胸痛や頭痛と言った様々な主訴や病歴に対するアルゴリズム的な診断、トリアージを何度も経験したことで、注意して問診・診察すべき徴候、いわゆるred flagsを自然と身に付けられた。一方で、現地の医学生がアルゴリズムやスコアリングを使いこなして患者のマネジメントを適切にプレゼンテーションしていた点に衝撃を受けた。

また、病棟とストリート

の間に位置する救急外来と言う特殊な環境に身を置いたことで、社会における病院、医療の立ち位置について改めて考える機会となった。近年、日本でも北米型

ERを採用する病院も増えつつあり、そのような病院も留学前に複数見学したが、日米のERの大きな違いとして、入院への敷居の高さが挙げられる。すなわち、TJUのERでは緊急疾患の除外に極めて重きを置いているように感じられ、逆に重篤疾患の可能性があっても緊急性が無いと判断すれば患者を帰宅させる事が多かった。日本のERも目的や理念は同じだが、そのバランスは明らかに異なるものであった。さらに、米国のERはEmergency Medical Treatment and Active Labor Act (EMTALA) によって患者の診療を行う義務が課せられているため、医療保険の関係で一般の外来に掛かれない貧困層の患者も多く訪れており、病棟や一般外来の



実習では恐らくほとんど見ることの出来なかったであろう、本場の「アメリカ」を体感出来たと思う。

筆者個人の人生に対する大きなインパクトとして、ERと言う絶えず多くの患者が訪れては去ってゆく環境に曝露したことで、逆に、自分は病棟や外来で時間を掛けて患者と付き合っていく仕事をしたいと気付くことが出来た。

このような貴重な機会を頂いたこと、またその実現のために尽力して下さったTJUおよび千葉大学の皆様に心からの感謝を示し、結びの言葉としたい。

### イリノイ大学外科系集中治療室

千葉大学医学部6年 西織 浩信

私は2016年5月の1か月間、米国イリノイ大学外科系集中治療室にて臨床実習をする機会を頂いた。イリノイ留学には大学入学前から興味があり、是非この機会に米国の医学生と同じように実習を行い、将来の糧にしようと思い決めた。

外科系集中治療室での実習は朝早く、患者さんの問診、診察、指導医へのプレゼンテーション、レジデントの病棟管理の手伝いと、あつという間に過ぎていく。実習生活を送る上で一番印象的だったのは指導医が毎週変わり、治療方針や考え方がガラリと変わることがあること。若手医師にとっては様々な指導医の知識、考え方を吸収できる良い機会となる一方、絶対的なリーダーである指導医には自分を客観的に評価しつつ、自己研鑽に臨む姿勢が必要になると思われた。他にもレジデントの患者さんへの説明能力の高さ、医学生が細かくアセスメントを立て患者の治療方針に影響する実習をおこなっていること等、日本との違いに驚くことも度々だった。

受け持たせて頂いた患者さんへの応対にも、大変思い深いものがある。特に輸血不能の宗教のアフリカ系の患者さんだ。心配そうな家族の方が見守る中、問診、身体診察を繰り返した毎日。自分にとっても緊張の日々であったが、ICU退室時に家族から感謝の言葉を頂き、言いようのない充実感が湧き出たことを思い出す。一方、英語でも医

学知識でも勉強不足を痛感することも多く、特にリスニング力の不足には悔しい思いを幾度となくしてきた。ともあれ、様々な医療スタッフに囲まれて40数例の様々な症例を診察させて頂いた経験は、私にとって一生忘れられない宝になった。最後に、今回の留学にご尽力下さったイリノイ大学、千葉大学医学教育研究室の先生方、学務係の皆様、そして留学を許してくれた部のメンバーに心から感謝の気持ちを表したい。人種のるつぼの中で再確認した

日本人としてのアイデンティティ、一人の医療者として人種、信条を越えて一人の患者さんに向き合ったこ



写真右が筆者

と。米国での貴重な経験の数々を糧にして、今後もしっかり精進したいと思う。

### タイ王立マヒドン大学附属 シリラート病院での臨床実習留学報告

千葉大学医学部6年 中川 優

私は2016年4月11日から22日の2週間、マヒドン大学熱帯医学・感染症科へ留学する機会を頂きました。

マヒドン大学は特に熱帯医学・感染症の分野において世界的に有名であり、アジアの医療と感染症の両方に興味がある私にはとても魅力的でした。

実習内容は、HIV重症患者ラウンド、フェローがピックアップした症例を皆で検討するMicrobiology Round、論文抄読会、症例報告、そしてHIV外来でした。特徴的だったのは妊婦外来とティーン外来があったことです。ティーン外来にはかなり多くのゲイが来院し、お国柄を感じました。先生は必ず私に患者の感染発覚時期・合併症・治療開始時期と当時のCD4セルカウント・使った薬剤・カウントの推移を説明して下さいました。合併症では

ベニシロシスやヒストプラズマ症など、日本では馴染みのないものも見受けられました。

タイでは翻訳されていない教科書も多く医師は原本を使って勉強しているため、日本の医師よりずっと英語が堪能でとても驚きました。またアジアの中では医療先進国であり医療内容も充実していました。貧困層と富裕層の差は印象的でした。

シリラート病院の敷地内にはもう一つPrivate Hospitalがあり、そこは富裕層が受診する病院で建物も新しくなったのですが、私が実習していた国立の方の古い病院は貧困層や他病院からさしを投げられた患者が多く受診することと、人でごった返しなかなかに壮観でした。背部痛を訴える女性を診た先生に「彼女はきちん保険に入れないくらい貧しいので治療が限られる」と説明された際は貧しくて

も充実した医療を受けられる日本との違いを痛感しました。

滞在中にはタイの正月にあたるソンクラーンがありました。これは水かけ祭り、街を歩くと誰しもが手当たり次第に水鉄砲で水をかけてくるという想像を超えた祭りでした。タイの人々の温かさ、朗らかさに触れることもでき、とても充実

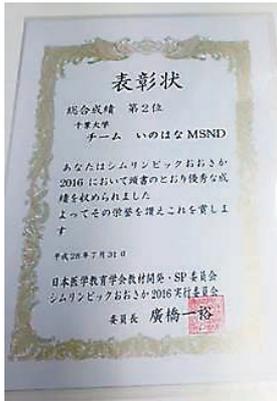
した滞在をすることができた貴重な体験となりました。今回の留学に際し、医学教育研究室山内先生、学務の吉原様、マヒドン大学国際交流課の皆様には大変お世話になりましたこと、LASSOの海外留学支援制度より奨学金を助成していただきましたことに心より感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。



写真後列右から4番目が筆者



写真右から、医学部6年生の難波俊文さん、坂本真季子さん、鈴木崇浩さんが医療面接優勝。総合2位の成績を取めました。



日本医学教育学会が、シミュレーション教育の理解と普及をはかること及び医学生の臨床能力を客観的に評価するシステムを確立することを目的として、全国の大学医学部から集まった学生が、臨床実習での学習の成果を3人1チームで力試する企画。

シムリンピックおおさか2016



写真右から、医学部5年生の中川友貴さん、山地柚帆さん、宮原杏奈さん、武内幹人さん、看護学部2年生の叶雅子さんが、全国医学生CPR選手権関東大会で総合受賞の成績を取めました。



救急医学会が、全国の医学部学生の心肺蘇生法(CPR)技能向上を目指した企画で、地区予選を経て決勝へと競う大会。全国の医学生が集まって切磋琢磨すること、より質の高い心肺蘇生について考え、医学生自身が各地域でのCPR普及の担い手となることを期待している。

第2回全国医学生CPR選手権大会

これがコンピュータプログラムに使うものですよ。と見せられたのは、直径が4〜5mmの穴が数多くあけられている細長いテープでした。まるで、手動オルゴールの楽譜テープのようでした。約半世紀前のことです。筆者が医学生の時、工学部に在籍の友人により披露されたのです。爾来、コンピュータにおける二進法は、他の情報媒体を凌駕してきております。スマートフォンが闊歩する時代となりました。百科事典、地図帳、乗り物時刻表を凌駕するのみならず、電子新聞、テレビ電話、写真・ビデオ機、等々の機能を手のひらサイズに収納する日常生活です。筆者においては、デスクトップ型やノート型のパソコンを殆ど使用しない状態でのインターネット活用です。重量が1kg以下のノートPCタブレットで万能という方もいる状況です。さて、以上のような潮流の中、のほな同窓会報においては、10年前にオンライン会報を開設しました。その開設数年前のことです。

先生、紙媒体ののほな同窓会報は見ませんよ。パソコンの生活ですよ。是非、インターネットで情報をください。との声が聞かれたのです。そこで、2〜3年間の準備期間を経て、開設したのでした。そして、重要な課題は、中身をどうするかでした。試行錯誤の末、ようやく現状にたどりついております。どうか、トップページをご覧ください。医学・医療としての情報サイトの役割以外にも、会員諸氏のみならず、一般の方々にも配慮しつつ、動画主体としての情報を発信しております。残念ながら、3年ほど以前に掲載してある番組をスマートフォンのでは閲覧できませんが、徐々に、利便性を高めつつあります。動画主体ですので、例えば、著書の紹介では、インタビュー番組としております。著書への想いを、出版後の感想も含めて、著者に語ってもらおうという趣向です。のほな同窓会報での著書紹介とは、一味違った紹介欄です。病院・医院・

オンライン会報の開設10年を経て

— 希求される新たなチャレンジャー —

のほな同窓会 副会長 鈴木 信 夫 (昭47)

診療所の紹介では、ホームページとは違う側面から、インタビューなども交え、医療活動の理念を紹介するようにしております。また、千葉日報記事としての紹介も連動させてきております。それらの番組制作にあたっては、十分な準備期間と種々の対策を行っております(表参照)。

- 病院・医院・診療所の紹介番組製作手順の概要
- 1 対象先の選定 (原則、複数の推薦)
  - 2 対象先へ打診 (1.のステップから半年〜1年後)
  - 3 対象先との打ち合わせ
  - 4 録画取材
  - 5 編集
  - 6 校正 (必要な場合、再録画あり)
  - 7 最終編集
  - 8 編集DVDの送付 (ホームページ作製会社などへ)
  - 9 オンライン会報掲載確認 (必要な場合、再編集)
  - 10 オンライン会報公開
  - 11 千葉日報記事原稿作製
  - 12 記事原稿の対象先と千葉日報社への送付
  - 13 千葉日報記事の校正
  - 14 千葉日報掲載

では、IOT(Internet of Things)やAI(Artificial Intelligence)の時代、オンライン会報の今後についてです。さしあたり、現在の形式のものは、スマートフォンやタブレットで適正検索される仕組みがなされておられません。従って、スマートフォン検索結果のランクがトップである現状から下がる可能性がります。検索しにくくなりつつあります。今後のリニューア

ルに向けて、新たな施策を必須としております。また、担当者の高齢化もありますことから、そろそろ終了することが望まれます。その上で、新たなチャレンジャーによる理念の基、若いスタッフの方々による斬新な規格のサイトが編み出されることが希求されます。なお、冒頭記した半世紀前のことですが、すでに、米国マサチューセッツ大学では、「MACプロジェクト」なるコンピュータをより身近にするための活動が開始されていたそうです。そして、現在、「先進技術を身近にする」との理念で、新たな探求をしているとのこと。のほな同窓会もしかり、としましょう。(オンライン会報案内は30・31面に掲載)



会報にQRコードをスキャンしてください

学内情報

あのはな同窓会支援

第59回東日本医科学生

総合体育大会運営本部 活動報告

第59回東医体千葉大学医学部運営本部

財務局長 高倉 大暉

千葉大学は第59回東医体の代表主管校となり、あのはな同窓会報169号にてご報告、資金援助のお願いをいたしました。おかげさまで同窓会様より多大なるご支援をいただいております。運営本部の会計を統括する者として心より感謝申し上げます。ありがとうございます。前回の活動報告より1年がすぎました。その間、夏季競技開催に向けた準備会合である第1回の定例会議、総合開会式の開催(写真は平成28年7月に行われた総合開会式の様子です)、また夏季競技開催期間(8月1日~14日)の日直業務等を行ってまいりました。おかげさまで夏季競技においては大きな事故もなく無事終了することが出来ました。現在は夏季大会の報告や運営における様々な問題を話し合う第2回の定例会議の開催に向け準備中です。

私たちは東医体に参加する選手の方々の「縁の下」の力持ちだと思っております。でもその縁の下にはさらなる「縁の下」があります。それは先輩方が千葉という地に培ってきた「地縁」だと思えます。後援申請の場面において、外部での会議のセッティングにおいて、「千葉大医学部の学生だから」と先方様には大変骨を折っていただきました。これは先輩方が脈々と受け継ぎ、高めてきた「千葉大ブランド」の力であると痛感しました。加えて、「千葉大医学部生」というその名に恥じぬ医学生であらねば、と自分たちの背負う責任の重さ、そして伝統の大切さを実感した一年間でもありました。

2年前の秋から始まった運営業務も残すところあとわずかとなりました。各々

勉学や部活動を抱えながらではありますが、次代にしっかりと引き継いでいけるように、選手の方々に素晴らしい大会であったと思ってもらえるように、そして同窓会の皆様に応援した甲斐があったと満足していただけのように、精一杯努めてまいります。今後とも温かいご支援のほどをよろしくお願いいたします。

運営本部のメンバー

- 運営本部長 中村 俊介
副運営本部長 川西 朗弥
総務局長 宮崎 柊子
同副局長 西川 侑成
財務局長 高倉 大暉
同副局長 宇佐美 滉太
大澤 健太
広報局長 山田いづみ
書記局長 岡田 晃宏
同副局長 平山 悠仁
渉外局長 糸山 頌理
安全対策局長 黒田 裕太
同副局長 篠崎 勇志
保険傷病対策局長 山本衣里奈
同副局長 大嶋幸太郎
競技企画局長 宇津野 瞳
同副局長 田鎖 遥
式典企画局長 安藤 樹史
同副局長 森木 麻衣
エントリー局長 大沼 愛
同副局長 助崎あきら
同副局長 武久 佳央
評議委員長 森川 真衣
副評議委員長 池澤 奏那
会計監査委員 高橋 達郎
会計監査委員 高橋 達郎



選手宣誓 医学部3年ラグビー部 篠崎勇志

第59回 東日本医科学生総合体育大会 夏季競技結果

Table with 5 columns: 優勝 (Winner), 準優勝 (Runner-up), 第3位 (3rd place), 千葉大学医学部順位 (Chiba University Medical Department Ranking). Rows list various sports like 硬式野球, テニス, ソフトテニス, etc.

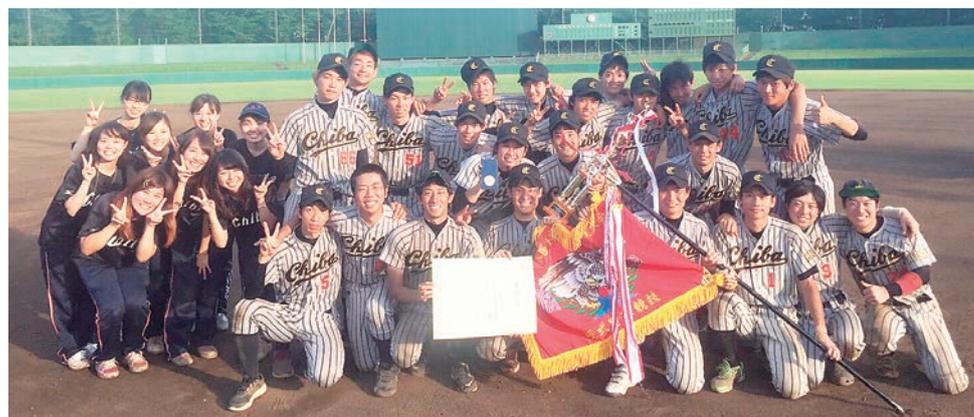
第59回 東日本医科学生総合体育大会 夏季競技結果総合ポイント

Summary table showing overall points: 第1位 慶応義塾大学, 第2位 秋田大学, 第3位 旭川医科大学, 千葉大学医学部順位 15位/36大学

- 陸上 男子800メートル準決勝進出: 中村優太
ソフトテニス 男子ベスト32: 花山聡紀・井上史也ペア
女子ベスト8: 小澤優・田尻有希ペア
バドミントン(女子) シングルス ベスト8: 齋木彩絵 ベスト32: 平高明音
ダブルス ベスト32: 齋木彩絵・加賀美聡子ペア
弓道 第7位: 渡辺祥伍
水泳(女子) 50m背泳ぎ第7位: 吉岡桜子
ヨット 男子第3位: 石原慶・林亮佑 女子第2位: 中島理子・凌将登
男子第12位: 坂本陽介 女子第12位: 村瀬摩希子

### 優勝 サッカー部

昨年の2回戦負けの悔しさを忘れずに日々の練習を積み重ねた結果優勝することができました。来年もまた結果を残せるように部員一同精進していきたいと思います。



### 優勝 硬式野球部

多くのOBの方の支援と皆様の声援で優勝することができました。来年も優勝し、連覇を達成できるよう努力していく次第ですので、ご支援ご声援のほどよろしくお願い致します。

### 第3位 ヨット部

私達ヨット部は、江ノ島で行われた東医体で、昨年に引き続き団体戦第3位となりました。優勝を目指して練習してきた分、悔しさもありますが、また一年チーム一丸となって練習に励みます。ご声援ありがとうございました。



### ご寄付のお願いと寄付金の税額控除のお知らせ

猪之鼻奨学会は、大正4年(1915年)に創立されて以来、多くの方々からの善意の寄付金により奨学事業を実施してきております。平成24年4月1日「公益財団法人」として、新たにスタートした猪之鼻奨学会は、「定款」に謳いますよう、医学及び薬学の研究を奨励することを目的として、研究事績の優秀な者に研究費の補助、そして学資の欠乏を告げた学生に学資の貸与を行ないます。これらの事業を遂行するために、どうか皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

一口5,000円ですが、ご都合により何口でも結構です。ご寄附にご賛同いただける方は下記口座にお振込みください。

なお、「特定公益増進法人化にともなう寄付金の税額控除」に関しては、公益財団法人へ移行したことにより、本会が税制上の優遇措置の対象となる特定公益増進法人となりました。従って、個人によるご寄付の場合、所得の40%を上限として、ご寄付金額から2千円を差し引いた金額が、その年の課税所得から控除されます。法人によるご寄付の場合、一般の寄付金とは別枠で、特別損金算入限度額まで、損金の額に算入することが認められます。

今後とも、皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行  
口座番号 00180-3-59844  
口座名 公益財団法人猪之鼻奨学会  
(お問い合わせ先)  
Tel&Fax 043-226-2059  
E-mail : ishougakukai@chiba-u.jp

# 亥鼻祭

2016年度亥鼻祭実行委員長

医学部4年 宇津野 瞳

2016年11月5日(土)、11月6日(日)の二日間に亘りまして、2016年度亥鼻祭を無事開催できたことをご報告いたします。今年度は両日とも晴天に恵まれ、約2000名の来場者の方々にお越し頂きました。今年度の亥鼻祭のテーマは「One for all, all for one」といたしました。直訳すると、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味ですが、学生間の結束はもとより、より一層地域に根差した学園祭となるように、との意味を込めました。

当日の様子については、記念講堂前広場では、ステージ上での演奏やダンスサークルによる出し物、部活ごとの出店テントで賑わっておりまして。看護棟内では今年も様々な企画が催されました。例年一番人気の身体ふしぎ発見という企画では、超音波検査を実際に使った実演や、スパイロメーターを使った呼吸機能測定、生の動物の臓器を

使った循環器系の説明などを行い、より現実に即した医療現場をお客様に親しんで頂けたと思います。看護ノスメ企画では看護学部の学生が日頃の勉強の成果をまとめ、来場者の方々に看護の現場について解説しておりました。薬学部では、BLSを学べる応急救護体験ブースや、卒業生の方々による若手医療職の生の話を聞けるブースが開かれておりました。どの企画も来場者で賑わい、日頃の感謝を伝える場所として盛況したと考えております。さらに、今年度からの新規団体として、千葉大学附属病院の整形外科(口コモテイブシンドローム周知活動のため身体ふしぎ発見と合同出展)、臨床試験アライアンス(医薬品・医療機器開発に関する啓蒙活動の一環としてブース出展と講演会)なのはなおでかけらぶ(障害児の社会参加を促進する旨のポスター展示)、の三団体が亥鼻祭に参加されました。今までの良いところは



残しつつ、より進化した亥鼻祭を開催できたと思います。今後も新たな企画を積極的に募集し、ますます亥鼻祭を盛り上げていきたいと考えております。今年度も亥鼻祭を開催することができましたのも、同窓会の方々をはじめ、地域の方々や保護者の方々のご理解・ご協力のおかげでございます。この場をお借りして、応援して下さいました皆様に深く感謝申し上げます。学生が日頃の学習や活動の成果をお見せし、皆様との出会いや関わりを築くことのできる場を亥鼻生全員で創り上げるよう頑張りますので、来年度もぜひ亥鼻祭へお越し頂ければ幸いです。

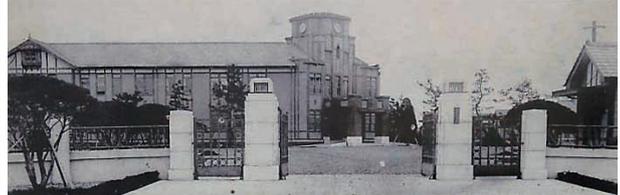


写真パネル展示



**ゐのほな同窓会支援  
ホームカミングデー報告**

2016年11月5日(土)亥鼻祭初日をホームカミングデーとし、ゐのほな同窓会館において旧亥鼻キャンパスの写真パネルの展示、各支部会誌、新ゐのほな同窓会館完成記念講演ビデオ等の展示・配布を行った。午後1時から2時の間は「ハッピーアワー」が開催され、多くの医学部学生、若手同窓会会員、亥鼻祭に訪れた家族連れのOB達で同窓会館が賑わい、盛会となりました。



ハッピーアワーの様子

第10回

ちば BASIC & CLINICAL RESEARCH CONFERENCE

開催のお知らせ

日時 平成29年2月4日(土)13:00~17:00

場所 千葉大学医学部附属病院3階 ガーネットホール

※本研究会はスカラーシッププログラムの講義としても位置付けております。

総合司会 千葉大学医学部 5年 深谷小百合

13:00 ~ 開会の辞

千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授 白澤 浩 先生

13:10 ~ 講座紹介

座長 千葉大学大学院医学研究院疾患生命医学教授 幡野 雅彦先生

『環境因子により後天的に獲得するゲノム修飾と発癌』

演者 千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学教授 金田 篤志先生

『呼吸器内科 臨床と基礎の融合研究』

演者 千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学教授 巽 浩一郎先生

14:00 ~ 学生発表

座長 千葉大学バイオメディカル研究センター准教授 坂本 明美先生

千葉大学医学部4年 宮崎 柊子

演者 千葉大学医学部3年 河野 健太

千葉大学医学部4年 坪坂 歩

千葉大学医学部3年 依田 夏美

千葉大学医学部5年 渡辺 祥伍

千葉大学医学部3年 吉岡 正揮

千葉大学医学部2年 荻野 智大

千葉大学医学部4年 上原 悠治

15:30 ~ 休憩

15:40 ~ 特別講演

座長 千葉大学 学長 徳久 剛史先生

『免疫制御の新戦略』

演者 順天堂大学医学部名誉教授 奥村 康 先生

16:40 ~ 講評

千葉大学 学長 徳久 剛史先生

16:45 ~ 学生講演表彰・閉会の辞

千葉大学大学院医学研究院長・医学部長 中山 俊憲先生

17:30 ~ 19:00 情報交換会

場所：千葉大学医学部附属病院3階 職員学生食堂

会費：教員1,000円 教員以外100円

【世話人】(敬称略)

国立大学法人 千葉大学学長
国立大学法人 千葉大学理事
千葉大学大学院医学研究院長・医学部長
千葉大学医学部附属病院長
千葉労災病院長
船橋中央病院長
国際医療福祉大学三田病院長
千葉大学大学院医学研究院整形外科学前教授
千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授
千葉大学大学院医学研究院アレルギー・臨床免疫学教授
千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授
千葉大学バイオメディカル研究センター准教授

徳久 剛史
中山 俊憲
中山 本 陽一
河野 修一
橋須賀 收勝
宮崎 和久
高橋 浩
白澤 浩
中島 裕史
大島 精司
坂本 明美

【事務局】

千葉大学バイオメディカル研究センター内 内線 7901

主催：千葉大学大学院医学研究院・医学部

共催：ちば BASIC & CLINICAL RESEARCH CONFERENCE 事務局
(学生代表：大森 智瑛)、千葉医学会、ゐのほな同窓会

随 想

50 数 年 ぶ り の ホ ー ム ・ カ ミ ン グ ( 完 )

新 堀 茂 ( 昭 38 )

永き不在の後のキャンパスには、昔を偲ぶ縁は殆ど無く、僅かに水道塔が遠き日の事共の追憶を誘うのみ。みんな、みんな懐かしい。若かりし日の仲間が入れ替わり立ち替わり脳裏を去来する。

高校同期の海宝雄一君の話をしよう。私共の高校は埼玉県春日部高校。海宝君は大企業に勤めていたが、家業の病院を継ぐため千葉大学医学部に見事入学。なんと私の14年後輩になった。卒後直ちに第二外科に入局。そこは御父君海宝仁氏(大14)が研鑽を積まれたところであり、更に更に、ご長男海宝雄人氏(福島県医大・平6)も第二外科に入局。現在海宝病院を継承。雄一君は病を得て静養中。高齢でもあり歩行はいささか覚束ないが一応元氣。

私達の頃は未だ旧制高校に在った教養主義の余韻が残っていた様で、先輩達はクラシックは勿論シャノン、タンゴ、ジャズ等のレコードを蒐集したり、不味いコーヒーを啜りながら、

ドイツ・リートやイタリア・オペラをガナツたりした。やがて私達の世代になると殆どの学生がクラシック・ギターを弾いていた。その内コーラス・ブームで誰もがロシア民謡を歌った。何故ロシア民謡を?やはりコミンテルンの影響か?その間「1、2、3。1、2、3。」と脚をドタドタ踏み鳴らしてダンスを覚え、夏は水泳、ヨット、登山。冬はスキー。一年中テニス、囲碁、麻雀に明け暮れる。麻雀と言えは第一学生寮では、試験前になると決まって御開帳となる。選りにも選つてそんな時になせでしょうね。大らかな時代でした。

ともあれ、近頃の学生達は秋の夜長をどう過ごしているのでしょうか。

医者も需要と供給の経済原理によって、減らされた水増しされたり。先の大戦で国内の医者が軍医として召集され、医者不足を補うため医学専門学校を創り、女子医専、更に歯科医を教育して医師とする。やがて終戦となれば戦地から引き

揚げてきた軍医も加わり、職にあぶれる医者が巷に満ち溢れると言うてんやわんやの大騒ぎ。医専を新設大学に編成替え。国民皆保険制度の確立と共に、医者不足が叫ばれ「一県一医大構想」の掛け声の下、国立、私立の「新設医大」が雨後の筍の様に設立される。当然医師過剰が起こる。そこで、医学部定員を減らす。卒後研修制度を変革したことから、優れた全人教育を担っていた医局制度が揺らぎ、若手医師の都市遊民化と医師偏在化で今度は医者不足。そして、その土地に定着する事を条件に、特別枠で入学させる等も含めて医学部定員を増やす。それでも足りないと言ひ募つて、またぞろ医学部を新設。そんな医者を作つて一体どうするつもりなのかね?医療費が膨張し続けていると言うのに。

私の終生唯一の誇りは名門千葉大学医学部に学んだ事だ。実のところは浪人するのが怖かったから千葉大に逃げ込んだのだが。ここに居場所を見つけられなくて、ドクター・コースは東京女子医大心臓血圧研究所へ。ここからも逃げて永い逃避行の末に、東海道三島の宿に細やかな循環器科内

科クリニックを開業。30年後の一昨年無事閉院してリタイア。私は医者になつて良かったとつくづく想つ。特に千葉大学医学部で学んだことを最高の選択だった。小市民的で、医学者は

会 員 从 来

欧 州 医 学 史 巡 り

ギ リ シ ア ( コ ス 島 )

杉 田 克 生 ( 昭 54 )

科クリニクを開業。30年後の一昨年無事閉院してリタイア。私は医者になつて良かったとつくづく想つ。特に千葉大学医学部で学んだことを最高の選択だった。小市民的で、医学者は

育つたか否かは知らず、最良の臨床家を輩出させたと考ええる。私は授業に殆ど出なかつたし、たつた6年の付き合ひだけだったが、今でも心の故郷と思つている。これにて皆様にお別れを。

医学部1階の階段をあがると直ぐの踊り場にヒポクラテスの像がある。筆者の学生時代から現存したと思われるが、当時の記憶は皆無である。コス島は医学の父ヒポクラテス誕生の地で、また「医学の神」アスクレピオスの神殿(アスクレピエイオン)の地でもあり、医師であれば是非一度は訪れたい所である。筆者は2007年5月の暑い盛りに日本公私病院連盟主催「ギリシアの医跡を巡る旅」に同行させていただいた。その際見たコス島アスクレピエイオンの「ヒポクラテスの誓い」の儀式は、思い返す度に感動を新たにしている。現代のコス島は観光リゾート地に様変わりしている

ようであるが、本来は古代医療の首座を占めた島である。コス島のアスクレピエイオンは、コス市近郊で島の丘陵地帯のはじまるあたりで、鉱泉からもさほど離れておらず温暖で健康に良い高台に築かれている。この地の地質調査によると、破砕状石灰礫岩(ブレッシア)がドロマイト化しており、湧き出す鉱泉がミョウバンや石膏に富むことが分かった。ミョウバンや石膏の主成分はマグネシウムであり、この泉の水を飲めば胃腸病

や高血圧に効果があったと思われる。コス島市内中心部の広場の一角にコス考古学博物館がある。古代の石像が主たる展示品であるが、ヒポクラテスの彫像は館内の一番奥にあり必見に値する。右腕は欠損しているが、アスクレピオスの杖を持つていたと推測されている。ヒポクラテスは健康と病気を自然現象として客観的にとらえ、医療を魔術から切り離れた。病気は体を構成する4体液の不均衡でおこり、健康となるうとする自然の力(Dioscorides)があるとす四体液説を提唱した。プログノーシスを重視したが、特別な医療がない当時では、自然治癒できるかどうかの見極めであったと思われる。「直る見込みがないのは診な

い」とは現代では言いにくい。医師の診たては尊重されるべきである。「Vita brevis, ars longa, occasio praeceps, experientia fallax, iudicium difficile」はヒポクラテスの言である。この博物館から徒歩で数分のところに、ヒポクラテスの木(プラタナスの樹)がある(写真)。この樹の下でヒポクラテスは弟子たちに医学を講じた。日本ではこの樹の若木を医学者が持ち帰り病院中庭に植樹されているそう、ゐのはなの附属病院にもあるとのことだが確かめたことはない。なお2016年11月実施のギリシア本土の医学史巡りに関しては、次号ゐのはなの窓会会報に報告する予定である。



ヒポクラテスの木(プラタナスの樹)

## るのはな同窓会支援 第41回 ゐのはな美術展開催

橋本 英明(昭45)

第41回目の美術展が終了しました(10月3日〜9日)。天候不順や連休もありましたが、例年通り100名ほどの来館者があり好評でした。出品者は10名。島田哲男(昭41)、榎本貴夫(昭47)、石井邦夫(昭26)、吉田克彦(平4)、伊藤進(昭26)、野口真利(昭40)、吉川広和(昭40)、川村孝子(昭36)、宮下久夫(昭38)、橋本英明(昭45)。

当会の喫緊の問題点は、会員の年齢が総じて高くなり、出品者数が減少傾向にあることです。世の中デジタル化が進み、サイバー攻撃など犯罪の形態も変わっています。書画歌琴などアナログ分野は、総じて若い世代には人気がないようです。それでも、このところ若い会員の参加があり、頼もしいかぎり。るのはな美術展の特徴は、作品の出来栄えより、その展示会場にあります。役者が地方での公演より国立劇場でやりたいというようなもので、絵画でも額縁や展示場所が価値を高めてくれるのです。会場は例年同じで、銀座通



り5丁目交差点から入った銀座のど真ん中です。みゆき通りに面しており、真向いは旧松坂屋です。ここに来年4月新たなビルが開業予定です。ビルは「GINZA SIX」と命名され、ブランドショップが240店舗入るそうです。るのはな美術展は同窓会から協賛を頂いておりませんが、当会は母校の江戸屋敷としての役目も果たしたいと考えております。東京に隣接しながらも、千葉の袋小路のロケーションが、流通を悪くしていると思われまふ。都心には、宮崎館や、熊本館など出先機関が地方大名屋敷の様に集まり、また丸ビルの中に

も地方の寺社や、私大のアンテナショップが設けられています。千葉県の空の玄関は成田、海は木更津、陸の玄関は「銀座」です。「るのはな美術展」は、小さな東京の玄関、間口を大きくするには、多くの来場者が必要で、皆様方も買物物がてら、展示会場にお立ち寄り下さるようお願い致します。次回、第42回美術展は、平成29年9月25日(月)〜10月1日(日)の予定です。入会希望の方は橋本まで。

**28年度会計報告**

28年度収入	
同窓会賛助金	200,000
会員出品料12名	300,000
不出品料2名	10,000
合計	510,000
28年度支出	
会場費	420,000
案内状・郵便・通信費等	31,000
受付・搬入出経費	77,000
合計	528,000

幹事  
宮下久夫(昭38)、野口真利(昭40)、島田哲男(昭41)、橋本英明(昭45)

### 第41回 ゐのはな美術展 出品作品

氏名	卒業年	作品
1 島田 哲男	昭41	①眠る ②眠る ③島原港(にほん丸船上より)
2 榎本 貴夫	昭47	①鳴子温泉峡 ②月宵一寶峯湖・中国一
3 石井 邦夫	昭26	①鳥 ②少女
4 吉田 克彦	平4	①ミルフォード・サウンド
5 伊藤 進	昭26	①公園の一樹 ②独活と椎茸 ③静物・花・パン ④野菜
6 野口 真利	昭40	①マルセーユ ②Café Van GOGH ③モンマルトル ④教会 ⑤レストラン
7 吉川 広和	昭40	①静物 ②静物 ③静物
8 川村 孝子	昭36	①石膏像(ニヨベ) ②石膏像(トルソー) ③ミケランジェロ「聖家族」模写
9 宮下 久夫	昭38	①安曇野 ②善光寺
10 橋本 英明	昭45	①百合の乱舞 ②三歳の七五三 ③法悦するマグダラのマリア(カラバッチョ模写)

(順不同)

## 神奈川 ゐのはな会 平成28年 27号



あのはな・かながわ (平成28年8月31日) 1

あのはな・かながわ 第27号 目次

巻頭言	神奈川あのはな会会長就任のご挨拶	小野田昌一	2
総会	平成27年度総会開催報告	高山篤也	4
	平成26年度神奈川あのはな会会務報告		6
	平成26年度決算報告・平成27年度予算案		6
	総会風景		7
	集合写真		8
病院めぐり	医療法人社団聖ルカ会パシフィック・ホスピタル	新倉春男	9
医学トピックス	C型肝炎肝炎診療：新たなパラダイム	松本伸行	12
身辺随記	私のゴルフ履歴書	森 豊	17
	つれづれなるままに	島田陽子	18
	四季の釣り	飯沼克博	20
	Alumni 同窓であるということ	越川尚男	22
新規開業		松澤陽子	24
表紙絵のこと		堀 敬明	26
計帳			26
事務局より			26
作品募集			27
編集後記			27

電子・中村隆次/表紙絵・堀 敬明

# 課外活動団体だより

## 男子バスケットボール部

医学部4年 主将 足立 広祐

千葉大学医学部男子バスケットボール部の歴史は大正時代に遡ると先輩達から伺っており、千葉大学医学部の教員や附属病院の医師にもOB達が数多くおられます。現在はプレイヤー23名、マネージャー12名の合計35名で活動しています。練習は火曜日に18時半から西千葉体育館、木曜日は18時から、土曜日は10時半から亥鼻体育館で行っており、合計週に3日間行っています。また週末に練習試合や大会などがあります。

5月頃開催される関東の医歯薬系大学で行う春大会、7月に関東近辺の国立大学6校で行っている関甲信大会(定期戦)、8月の東日本医科学学生総合体育大会、10月に行う秋大会に参加しています。2016年度は春大会、東医体ともに3回戦敗退、関甲信大会は準優勝することができました。また筑波大学医学部と浜松医科大学とは当部のOBが教授で着任したことから定期戦が始まり、現在も続いて



平成28年7月18日関甲信大会準優勝

います。さらに大会とは別に、毎年12月の納会、3月の卒業生部員のための追出しコンパ、5月の新人部員のための新歓コンパでは、OBの先輩方にご足労頂き、OBチームと現役部員チームに分かれて楽しく試合を行い、OBとも親しく交流しております。部員の中には小学校からバスケットをして

いる人もいれば、大学でバスケットを始めた人もいます。そして私たちは、医学部、薬学部、看護学部のプレイヤー、マネージャーがおり、学部、学年の垣根を超え、試合に勝ち、大会で良い成績を残せるように日々一丸となって練習に励んでいます。これからも変わらぬ温かいご支援をよろしくお願ひ致します。

**男子バスケットボール部役員**  
 主将 足立 広祐(医4)  
 副将 池間 俊輔(医3)  
 渉外 山内 麻央(医3)  
 会計 大橋 拓也(医4)

## 医看薬女子バレーボール部

医学部3年 主将 亀田 静



平成28年度秋季医科リーグ

医看薬女子バレーボール部は1997年に設立されました。私が入部した当初は医学部と看護学部の部員しかいませんでしたが、2015年からは薬学部の勧誘も始め、現在は医学部、看護学部、薬学部の3学部あわせて25人の部員が活動しています。

練習は基本的に、月曜、水曜の夜と土曜の朝の週3回亥鼻キャンパスの体育館で行っています。日曜日に大会に出場したり、他大学と練習試合を組んだりすることもあります。小中学校からバレーボールを続けている部員がいる一方で、大学からバレーボールを始めたい部員もおり、部員同士でアドバイスをしあいながら日々切磋琢磨して技術の向上に努めています。練習量は週3回なので多いとはいえませんが、限られた時間

の中で集中して練習をし、学生の身分である学業にもきちんと取り組めるようにしています。練習後などに自主的に練習する部員もおり、部活動と学業どちらも両立させることのできる環境です。

1年間で出場する大会は、医科リーグと医歯薬リーグです。春季と秋季にそれぞれ年2回開催されるため、年に4回大会に出場しています。現在医学部の部員数が少なく、医科リーグにはオープン参加しているため、医歯薬リーグを中心にチーム作りに取り組んでいます。昨年度の秋季大会、今年度

の春季大会ではいずれも準優勝という結果で着実に力をつけています。今年度秋季は創部初となる優勝を目指し、現在練習を積んでいます。

こうして日々バレーボールをすることができると、OB・OGの先輩方のご支援があつてのことです。この場をお借りして御礼申し上げます。これからも女子バレーボール部の活動を温かく見守っていただければ幸いです。

**バレーボール部役員**  
 主将 亀田 静  
 主務 栗原 菜摘  
 会計 町田 彩乃



### 患者様の想いを見つめて、薬は生まれる。

ヒューマン・ヘルスケア企業  
エーザイ

# 同窓会員著書の紹介

花井 透(昭41)著

患者の立場に立つ

良い医療を求めて

臨床医の軌跡Ⅰ



光陽出版社

花井 透(昭41)

1966年(昭和41年)卒業組は入学時が60年安保でインターン終了後の国家試験をクラスの大抵がボイコットした学年である(その経過の一端はこの本の117〜119頁で触れている)。秋の国家試験を経てそれぞれの道へ進んだわけだが、政治の季節を体験した私には医療と社会との関連が大きなテーマとなった。セツルメント活動などを通して知った民医連民主医療機関連合会が全国で展開している医療運動に共感を持った。それは普通の新卒医師がたどる道とは違うものだが、その理念と実践にはロマンがあった。それから50年、めでたく後期高齢者になった節目に

自らの軌跡をまとめておきたいと思った。民医連の理念と実践は後輩たちに受け継がれているが、50年前と比べれば、医療を患者の立場に立つて創り上げていくというとする医療界全体の動きは大きくなってきており、それぞれの医療機関では公立、私立を問わず努力工夫が重ねられてきている。これからの日本で、医学の進歩に裏付けられた良い医療(介護)が国民に提供され続けられるためには様々な問題があることは論を待たないが、国民皆保険の崩壊だけは許されない。今こそ医療者には患者・国民と手を結んで医療の現場を守り国民の健康を守るための発言と実践が求められている。町の片隅での一臨床医の実績をまとめてみたのもこんな思いからである。

高崎 健(昭42) 日本医療学会編  
鬼手仙心

世紀の外科医・中山恒明の教書

日経メディカル開発 定価2000円(税別)

高崎 健(昭42)



中山恒明先生が昭和40年1月に東京女子医科大学に客員教授として移られ、そこで消化器病に特化した診療施設としての消化器病センターを設立し、その中で医学部卒業後の本格的臨床医療研修としての医療修士制度を始められました。私は卒業後11名のクラスメイトと一緒に外科医療修士研修生の3期生として消化器病センターに入局しました。当時すでに1期生として2名、2期生として5名の先輩が入局して居られました。スタッフとしては中山先生と同時に第二外科より羽生富士夫先生が時限助手として就任されましたが引き

属されました。また内科医として名尾良憲先生を筆頭に、小幡裕、林直諒、久満董樹が所属していました。また開院後は多くの第二外科同門の先生方に外部より大きな支援を頂きセンターはすぐに満床となりました。

このように当初の医局員は大部分千葉大学出身者でありましたが数年後には当時日本の80医科大学の内79医科大学の出身者が医療修士研修生として所属するという他の施設では考えられないような混成部隊の様相を呈して来ました。このように様々な大学の出身者で中山先生の目指した理想の医療施設を作り上げるには、医療に対する基本的考え方が同じ方向でなくてはなりません。このために中山先生は何度も折にふれセンターに於ける医療のあり方、患者さんとの対応、医療安全、その他単に診療技術だけでなく様々な医療全般の事項についてお話しされ、医局員が共通認識をもって

臨床に当たるようにと考えられておられました。この時の様々なお話を今回本書に書き留めました。

私たちが多くの先輩から教えていただいた事柄を含め、中山流の医療の方法、考え方を中山教書(バイブ

ル)として今後に書き継いで行かなければならないと考えています。是非御一読頂きたく思っております。

千葉大学みのほな同窓会会員の皆様へ

## 「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：平成28年3月1日午後4時～平成29年3月1日午後4時(中途加入随時受付)

### 4つの安心で、先生方をしっかりサポート

団体割引適用

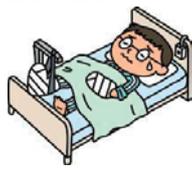


万一の  
**医療事故**  
を補償

地震によるケガも補償！  
**日常生活のケガ**  
を補償

働けなくなった時の  
**収入**  
を補償

万一の  
**がん・病気**  
を補償



※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、下記取扱代理店まで電話またはメールにてご連絡ください。

この広告は勤務医師賠償責任保険、フルガード保険特約付帯普通傷害保険、所得補償保険、団体長期障害所得補償保険、がん保険(1年契約用)、医療保険(1年契約用)の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入に当たっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります保険約款および協定書によりませんが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。 2016年7月 16-T15302

【お問合せ先・取扱代理店】

**PIONEER 株式会社パイオニア**  
Tel: 0120-36-8442 (平日8:30~17:45)  
http://www.pioneeritd.com/

【引受保険会社】

**東京海上日動火災保険株式会社**  
(担当課) 医療・福祉法人部法人第一課  
Tel: 03-3515-4143 (平日9:00~17:00)

東京海上日動は、1999年度からNGOをパートナーに、地球温暖化の抑制に役立つマングローブの植林をはじめました。マングローブ「海の森」づくりは、東京海上日動が地球の未来にける保険。100年間植林を継続することを目指し、取り組んでまいります。

※マングローブ植林活動計画  
公益財団法人オイスカ(1999年度～)  
国際マングローブ生保協会(2009年度～)

**東京海上日動**  
0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とち)

To Be a Good Company

# オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



オンライン会報は、開設以来10年以上を経ており、掲載動画数は288番組(2016年10月末現在)となっております。番組制作にあたりご協力いただいた方々は、以下の通りです。なお、氏名一覧も含めて、オンライン会報総合索引を作成中です。お待ちしております。今後も多くの方々の参加により、種々の情報を提供しますので、ご協力の程、お願い致します。

## オンライン会報氏名索引

氏名	カテゴリー	掲載日	氏名	カテゴリー	掲載日	氏名	カテゴリー	掲載日
菊地紀夫	同窓会	2013.8.19	稲葉憲之	生涯学習講座	2015.10.30	あ行		
喜多和子	生涯学習講座	2011.12.6	井原鉄二郎	生涯学習講座	2015.6.15	赤星健二	インタビュー	2012.8.15
北川定謙	インタビュー	2016.5.20	岩倉弘毅	同窓会員経営病院紹介	2010.12.27	秋葉哲生	同窓会員経営病院紹介	2013.6.2
北田光一	生涯学習講座	2012.3.21	岩倉孝雄	同窓会員経営病院紹介	2010.12.27	秋葉哲生	生涯学習講座	2013.10.28
木村定雄	生涯学習講座	2014.3.7	岩永光巨	キャンパス便り	2013.3.12	秋葉哲生	インタビュー	2011.4.27
金 弘	病院紹介	2009.1.8	岩破一博	生涯学習講座	2015.10.22	浅野克則	都道府県医師対策	2009.11.16
熊谷信夫	都道府県医師対策	2009.11.16	上田源次郎	病院紹介	2014.11.4	浅野 誠	同窓会員経営病院紹介	2014.11.27
久米田茂喜	都道府県医師対策	2009.11.16	上田源次郎	同窓会	2014.11.14	旭 俊臣	生涯学習講座	2012.5.7
栗生 明	インタビュー	2010.1.22	植田 健	生涯学習講座	2011.6.24	東 昌広	インタビュー	2015.6.30
栗生 明	キャンパス便り	2010.8.20	氏 建人	求人	2014.10.16	安達惠美子	生涯学習講座	2011.9.8
黒木春郎	同窓会員経営病院紹介	2013.12.4	宇野 隆	生涯学習講座	2015.6.15	五十嵐辰男	生涯学習講座	2015.10.22
桑島昭文	都道府県医師対策	2009.11.16	梅田 開	キャンパス便り	2015.10.26	五十嵐辰男	インタビュー	2012.8.15
桑原 聡	キャンパス便り	2012.8.15	潤間励子	キャンパス便り	2010.12.27	五十嵐辰男	キャンパス便り	2016.8.9
河内文雄	同窓会員経営病院紹介	2013.10.28	海野広道	求人	2013.8.7	猪狩英俊	生涯学習講座	2011.11.14
河内文雄	生涯学習講座	2014.7.25	遠藤英樹	都道府県医師対策	2010.11.12	生坂政臣	生涯学習講座	2012.8.28
河野陽一	病院紹介	2009.7.8	大岩孝司	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	生坂政臣	生涯学習講座	2015.6.15
河野陽一	生涯学習講座	2013.4.8	大岩孝司	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	池田黎太郎	生涯学習講座	2012.12.19
小林欣夫	生涯学習講座	2012.8.28	大岩孝司	オンライン書庫	2014.12.4	池田黎太郎	インタビュー	2012.3.21
小松寛治	病院紹介	2011.4.27	大久保和明	病院紹介	2010.12.27	井坂茂夫	病院紹介	2012.2.21
小松尚也	病院紹介	2015.5.7	大島伸一	生涯学習講座	2012.8.15	井坂茂夫	病院紹介	2010.3.10
近藤昭彦	生涯学習講座	2012.6.19	大場敏明	同窓会員経営病院紹介	2013.10.28	石井正人	生涯学習講座	2012.10.3
近藤福雄	インタビュー	2015.11.12	大場敏明	同窓会員経営病院紹介	2008.1.11	石井正人	オンライン書庫	2012.10.3
今野 宏	生涯学習講座	2011.2.15	大森裕子	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	石川詔雄	病院紹介	2011.7.13
さ行			小笠原真澄	都道府県医師対策	2010.11.12	石川みゆき	病院紹介	2011.4.27
齊藤 崇	都道府県医師対策	2010.11.12	岡田順子	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	石出猛史	インタビュー	2011.4.27
斎藤孝喜	病院紹介	2011.4.27	岡田美帆	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	石和田稔彦	インタビュー	2013.12.24
齋藤豊一	生涯学習講座	2013.7.29	岡野光夫	生涯学習講座	2013.10.28	伊丹 純	インタビュー	2012.10.22
斎藤 博	都道府県医師対策	2009.11.16	岡本和久	病院紹介	2010.7.27	伊藤賢司	生涯学習講座	2013.11.11
佐伯直勝	生涯学習講座	2013.7.29	小川富雄	生涯学習講座	2012.6.19	伊藤賢司	インタビュー	2013.11.11
三枝一雄	同窓会員経営病院紹介	2013.5.10	奥井勝二	生涯学習講座	2010.6.4	伊藤公一	生涯学習講座	2013.10.28
三枝奈芳紀	同窓会員経営病院紹介	2013.5.10	奥川忠博	インタビュー	2008.1.11	伊藤達雄	病院紹介	2010.9.10
早乙女勇	オンライン書庫		奥村滋夫	インタビュー	2009.12.17	伊藤晴夫	生涯学習講座	2010.8.6
堺 常雄	インタビュー	2016.6.20	小澤 俊	病院紹介	2009.1.8	伊藤晴夫	インタビュー	2016.6.27
迫田直治	病院紹介	2009.7.3	織田成人	生涯学習講座	2014.9.1	伊藤晴夫	インタビュー	2012.8.15
佐藤壹三	同窓会員経営病院紹介	2013.7.29	織田成人	生涯学習講座	2013.3.12	伊藤晴夫	インタビュー	2012.4.25
佐藤壹三	生涯学習講座	2013.7.29	織田成人	生涯学習講座	2009.3.3	伊藤晴夫	インタビュー	2008.5.23
佐藤一男	国際交流	2012.6.19	小野亮平	キャンパス便り	2013.10.15	伊藤晴夫	国際交流	2012.8.15
佐藤兼重	生涯学習講座	2012.6.19	小畑吉弘	インタビュー	2015.6.30	伊藤晴夫	国際交流	2012.6.19
佐藤武幸	生涯学習講座	2009.5.15	小俣政男	病院紹介	2011.4.27	伊藤晴夫	オンライン書庫	2016.6.20
佐藤武幸	同窓会員経営病院紹介	2015.5.20	か行			伊藤晴夫	オンライン書庫	2014.7.30
佐藤武幸	インタビュー	2014.2.27	加濃正明	生涯学習講座	2012.7.24	伊藤晴夫	同窓会	2015.1.5
篠塚 規	生涯学習講座	2012.6.19	神山一郎	同窓会員経営病院紹介	2011.2.4	伊藤晴夫	同窓会	2014.4.22
篠宮正樹	生涯学習講座	2013.3.12	亀井克彦	キャンパス便り	2012.1.10	伊藤晴夫	同窓会	2013.3.12
篠宮正樹	オンライン書庫	2012.9.27	亀田隆明	病院紹介	2010.5.7	伊藤晴夫	同窓会	2011.3.18
篠宮正樹	生涯学習講座	2014.7.25	川平 洋	生涯学習講座	2013.3.12	伊藤 博	病院紹介	2009.6.19
下山直人	インタビュー	2013.6.25	紀 仲秋	国際交流	2012.11.13	伊藤雅昭	生涯学習講座	2013.7.29
東海林 豊	求人	2014.10.16	菊地紀夫	求人	2013.8.7	稲葉憲之	病院紹介	2011.7.13

氏名	カテゴリー	掲載日	氏名	カテゴリー	掲載日	氏名	カテゴリー	掲載日
本間 順	都道府県医師対策	2009.11.16	千見寺ひろみ	生涯学習講座	2015.10.22	東海林 誠	都道府県医師対策	2010.11.12
<b>ま行</b>			千葉彌幸	生涯学習講座	2011.9.8	生水真紀夫	生涯学習講座	2013.11.11
前田尚武	都道府県医師対策	2009.11.16	Zhang Sho Feng	国際交流	2012.8.15	生水真紀夫	生涯学習講座	2011.8.15
牧野裕子	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	円谷 彰	生涯学習講座	2013.10.28	生水真紀夫	インタビュー	2011.8.15
町田 基	キャンパス便り	2010.12.27	出沢 明	生涯学習講座	2011.11.2	生水真紀夫	生涯学習講座	2016.8.9
松井宣夫	インタビュー	2012.1.10	寺澤捷年	生涯学習講座	2009.7.3	白澤卓二	生涯学習講座	2012.10.22
松永正訓	オンライン書庫	2016.3.22	堂垂伸治	同窓会員経営病院紹介	2013.12.4	白澤 浩	生涯学習講座	2014.3.31
松原久裕	生涯学習講座	2012.11.13	徳久剛史	生涯学習講座	2014.7.25	白鳥敬子	インタビュー	2010.7.23
松本 生	同窓会	2012.1.18	徳久剛史	キャンパス便り	2014.7.25	菅野 勇	病院紹介	2009.7.16
松村 凱	キャンパス便り	2014.10.24	年森清隆	生涯学習講座	2015.4.17	菅谷 滋	生涯学習講座	2012.10.3
三浦信之	同窓会員経営病院紹介	2012.11.13	栃木直文	インタビュー	2008.1.11	菅谷 茂	生涯学習講座	2012.6.19
三浦信之	同窓会員経営病院紹介	2008.9.11	鳥海 宏	都道府県医師対策	2009.11.16	菅谷 茂	キャンパス便り	2012.1.10
三浦正義	キャンパス便り	2013.10.1	<b>な行</b>			杉岡充爾	同窓会員経営病院紹介	2014.12.16
三浦正義	同窓会員経営病院紹介	2013.12.24	内藤 威	都道府県医師対策	2009.11.16	杉田克生	生涯学習講座	2010.7.27
溝口史剛	生涯学習講座	2013.11.11	永井蓉子	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	杉田克生	生涯学習講座	2015.6.15
三束武司	インタビュー	2015.8.28	長尾啓一	キャンパス便り	2010.12.27	杉田克生	同窓会	2014.11.14
宮崎 勝	病院紹介	2011.8.26	中尾洋平	病院紹介	2010.7.27	杉田克生	国際交流	2014.12.26
宮崎 勝	生涯学習講座	2010.6.4	中郡聡夫	インタビュー	2010.12.27	杉田克生	国際交流	2013.11.27
宮崎 勝	生涯学習講座	2009.3.3	中島伸之	生涯学習講座	2010.6.4	鈴木啓悦	生涯学習講座	2010.7.27
Mei Dong	国際交流	2012.6.19	中田瑛浩	病院紹介	2009.7.3	鈴木喜代子	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14
本山直樹	生涯学習講座	2010.2.2	中田 暁	キャンパス便り	2010.12.27	鈴木喜代子	オンライン書庫	2014.12.4
森 順子	同窓会員経営病院紹介	2010.12.27	永田慎一	都道府県医師対策	2010.11.12	鈴木信夫	生涯学習講座	2012.6.19
森 千里	キャンパス便り	2012.10.22	永野俊雄	生涯学習講座	2012.7.24	鈴木信夫	生涯学習講座	2012.6.19
森田(石井)弘之	同窓会員経営病院紹介	2011.8.26	中野義澄	同窓会員経営病院紹介	2013.7.29	鈴木信夫	生涯学習講座	2011.12.16
森 照男	同窓会員経営病院紹介	2010.12.27	中野義澄	同窓会	2013.8.19	鈴木信夫	オンライン書庫	2012.1.10
守屋秀繁	インタビュー	2012.2.21	中村正明	都道府県医師対策	2010.11.12	鈴木信夫	キャンパス便り	2012.4.25
森山紀之	インタビュー	2008.1.11	中村真人	生涯学習講座	2013.11.11	鈴木信夫	生涯学習講座	2015.2.17
<b>や行</b>			中谷晴昭	生涯学習講座	2015.4.17	鈴木信夫	インタビュー	2015.6.30
八木久子	求人	2013.8.7	中山俊憲	キャンパス便り	2015.10.22	鈴木弘樹	キャンパス便り	2010.8.20
矢島鉄也	インタビュー	2012.11.13	並木隆雄	生涯学習講座	2013.10.28	鈴木洋文	病院紹介	2011.7.13
安田敏行	同窓会員経営病院紹介	2014.7.25	縄野 繁	生涯学習講座	2013.10.28	鈴木 守	インタビュー	2008.5.23
山内保則	求人	2013.8.7	西野 卓	生涯学習講座	2012.4.25	鈴木 守	インタビュー	2015.8.21
山浦 晶	生涯学習講座	2013.7.29	野村知弘	同窓会員経営病院紹介	2014.7.25	鈴木良一	同窓会員経営病院紹介	2013.5.10
山岡賢二	国際交流	2012.6.19	野村文夫	生涯学習講座	2015.4.17	諏訪敏一	病院紹介	2009.6.19
山下洋一郎	生涯学習講座	2010.9.6	野本正嗣	同窓会	2014.11.14	諏訪敏一	生涯学習講座	2010.6.4
山田慎一	同窓会員経営病院紹介	2013.12.24	<b>は行</b>			関根裕司	インタビュー	2014.11.14
山本修一	生涯学習講座	2011.9.8	長谷 理	インタビュー	2009.12.17	相馬孝博	生涯学習講座	2013.10.28
山本修一	キャンパス便り	2015.10.22	長谷川敏彦	インタビュー	2010.12.27	<b>た行</b>		
山森秀夫	病院紹介	2009.7.16	畠山順子	生涯学習講座	2015.10.22	高岡昇太	生涯学習講座	2013.11.11
横須賀收	生涯学習講座	2011.5.10	服部孝道	同窓会員経営病院紹介	2012.8.15	高木 剛	生涯学習講座	2013.3.12
横須賀收	生涯学習講座	2016.5.20	原田順和	都道府県医師対策	2009.11.16	高田俊彦	生涯学習講座	2012.8.28
横手幸太郎	生涯学習講座	2012.8.28	原野和芳	病院紹介	2009.7.3	高橋和久	生涯学習講座	2013.10.1
横手幸太郎	キャンパス便り	2012.8.15	樋口誠太郎	インタビュー	2011.4.27	高橋和久	生涯学習講座	2016.3.22
横手幸太郎	生涯学習講座	2014.3.31	平澤博之	生涯学習講座	2014.9.1	高橋 誠	求人	2015.08.21
吉田英生	生涯学習講座	2010.11.16	平田豊明	生涯学習講座	2015.1.16	高橋 誠	病院紹介	2009.5.27
吉田政高	生涯学習講座	2011.12.6	平野智久	同窓会員経営病院紹介	2015.6.17	高林克日己	キャンパス便り	2012.8.15
吉田政高	国際交流	2012.6.19	平林直次	生涯学習講座	2015.1.16	高林克日己	生涯学習講座	2015.4.17
吉野一郎	生涯学習講座	2011.8.15	廣島健三	生涯学習講座	2014.7.30	高原善治	病院紹介	2009.10.27
吉原俊雄	病院紹介	2009.5.14	深尾 立	病院紹介	2009.10.27	高見澤裕吉	生涯学習講座	2016.8.9
<b>わ行</b>			福岡裕晃	キャンパス便り	2013.3.12	滝口裕一	生涯学習講座	2009.12.2
渡辺和明	病院紹介	2012.2.21	福田誠二	インタビュー	2011.12.6	橘 正道	インタビュー	2011.4.27
渡辺 武	インタビュー	2012.4.25	福永知義	インタビュー	2009.12.17	橘 正道	生涯学習講座	2015.9.15
渡邊 哲	キャンパス便り	2012.1.10	藤川文子	同窓会員経営病院紹介	2011.11.14	巽浩一郎	生涯学習講座	2011.11.14
済陽高穂	生涯学習講座	2011.12.6	藤谷 登	クラス会・他大学等	2011.2.23	田中宏一	生涯学習講座	2011.8.15
済陽高穂	生涯学習講座	2009.7.3	藤森宗徳	生涯学習講座	2011.9.8	田中健史	生涯学習講座	2011.12.6
			古瀬直子	生涯学習講座	2012.7.21	田邊政裕	インタビュー	2011.12.6
			古田多真美	同窓会員経営病院紹介	2013.7.29	田邊政裕	生涯学習講座	2014.3.17

鈴木 清枝 愛知医大昭16	水間 正冬 昭17	佐野 良五郎 昭19	文屋 卓 昭19	日高 久 昭20	藤崎 滋 昭23	大野 信次 昭23	本保 秀一 昭23	清水 長世 昭24	中村 和之 昭24	土田 功一 昭24	林 義次 昭24	石毛 晃 昭25	川村 純一 昭25	吉田 敏郎 昭26	森 巨敬 昭26	橋爪 壯 昭27	渡辺 勲 昭27	平林 健六 昭28
根本 幸一 昭29	山口 慶三 昭31	齋藤 幸洋 昭32	渡辺 福 昭32	今留 淳 昭33	武田 達夫 昭33	軽部 達夫 昭35	伊藤 純一 昭38	寺嶋 周 昭38	成瀬 孟 昭38	渡部 浩二 昭38	曾野 文豊 昭40	福田 武隼 昭42	藤原 克己 昭43	落合 靖男 昭44	榎 輝子 昭44	倉山 英昭 昭44	大澤 一仁 昭46	神保 英夫 昭59

おくやみ

2017年の新年号となります、ののはな同窓会報174号をお届けいたします。本号は済陽高穂会長の年頭の挨拶に始まり、大塚将之先生、田中知明先生、青江知彦先生、吉原俊雄先生の教授就任のご挨拶、横須賀先生、星岡明先生の病院長就任のご挨拶とおめでたい記事が冒頭を飾っております。猪之鼻奨学会便りに続き脳神経外科佐伯直勝教授の最終講義、平澤博之先生の主催された世界Shock学会、学内人事異動に関する記事が続きました。

次いで、本誌の重要な役割でありますののはな同窓会の関連記事が9頁を占めております。秋葉哲生先生の千葉県のののはな会会長就任挨拶に始まり、各地のののはな会だよりとクラス会の欄です。いつもながら、出席された方ばかりではなく、残念ながらご参加できなかった方々にも楽しめる記事と思っております。他の学年の先生方の消息を懐かしさとともに知ることができ、自分たちの学年も負けずに頑

千葉医学雑誌92巻5号 2016年10月

最終講義

肝疾患診療のこれまで・これから

横須賀 収

症 例

腹腔鏡下多発大腸癌同時切除術後に腸閉塞を契機に見えられた原発性小腸癌の1例

佐藤嘉治 小笠原 猛 志田 崇 野村 悟

高原善博 宇野彦彦 小松悌介 高橋 誠

食道アカラシア術後再発に対して腹腔鏡下根治術を施行した1例

碓井彰大 阿久津泰典 河野世章 上里昌也 村上健太郎 太田拓実 羽成直行

加野将之 松本泰典 高橋理彦 水藤 広 大塚亮太 松原久裕

第八回千葉医学会奨励賞

抗がん剤創製研究の歴史とプロセス—探索から開発まで—

大野吉史

学 会

第1314回千葉医学会例会・第5回臨床研修報告会

第1325回千葉医学会例会・平成27年度細胞治療内科学例会

OAP要旨

ケーブル併用ロッキングプレートによる大腿骨ステム周囲骨折に対する骨接合術

の術後成績

三浦道明 中村順一 大塚 誠 中嶋隆行 竹下宗徳 輪湖 靖

宮本周一 蓮江文男 藤由崇之 樋渡 龍 高橋和久 大鳥精司

折田純久 鈴木崇根 田中 正

白澤 浩

編集後記

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Clinical and radiological results of osteosynthesis for Vancouver type B and type C periprosthetic femoral fractures with locking plates and cables

Michiaki Miura, Junichi Nakamura, Makoto Otsuka, Takayuki Nakajima

Munenori Takeshita, Yasushi Wako, Shuichi Miyamoto, Fumio Hasue

Takayuki Fujiyoshi, Ryo Hiwatari, Kazuhisa Takahashi, Seiji Ohtori

Sumihisa Orita, Takane Suzuki and Tadashi Tanaka

千葉医学雑誌92巻6号 2016年12月

第八回千葉医学会奨励賞

治療抵抗性前立腺癌における機能性RNA分子ネットワークの解明

五島悠介

学 会

第1315回千葉医学会例会・第36回歯科口腔外科例会

第1321回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム(第4回桜美会)

第1330回千葉医学会例会・平成27年度第15回千葉大学大学院医学研究院

呼吸器病態外科学教室例会

研究報告書

平成27年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書

OAP要旨

カーボンナノチューブ強化チタン合金の摩耗特性

鈴木昌彦 逢坂優太 中村順一 杉本智広 大鳥精司

エッセイ

「編集後記」について

高野光司

編集後記

瀧口正樹

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Wear characteristics of carbon nanotube reinforced titanium alloys

Masahiko Suzuki, Yuta Ousaka, Junichi Nakamura

Tomohiro Sugimoto and Seiji Ohtori

第九回千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について

第10回ちばBasic&Clinical Research Conference 開催のお知らせ

92巻総目次・索引

編集後記

張ろうと思っただけだと思います。更に、学内は放射線科の宇野隆教授、学外は千葉県精神科医療センターの平田豊明院長、松戸市立病院の鳥谷博英院長による研修プログラムのご紹介をいただきました。卒業研修に関連する記事は病院紹介とともに、同窓会報の重要な役割の一つです。学生教育の欄では国際交流に関する記事が相次ぎ、(40年以上前の)私の学生時代と比べ、まさに今昔の感があります。同時に、将来を担う医学生・医師たちの活躍は期待とともに頼もしくも思われます。

かつては編集委員の出席が10名に満たない時もありましたが、本号の編集会議は、新たに巽浩一郎先生(呼吸器内科学)、桑原聡先生(神経内科学)、松宮護郎先生(心臓血管外科)、横手幸太郎先生(細胞治療内科学)のご参加をいただき17名にて開催されました。また、いつものことながら事務局の方々の事前の丁寧な校正のおかげで、字句のチェックにあま

り手間を取られることなく、内容の吟味を中心とした活発な議論を交わすことができました。私が伊藤晴夫先生(前同窓会長)のお誘いにより本会報の編集委員となりました10年前に比べますと、内容の充実とともに頁数も増えた紙面は皆様のご納得がいただけるものと思っております。また一方では、オンライン会報につきましては鈴木信夫先生(元編集委員長)の年余にわたるご努力の結果であり、現在の充実ぶりは目を見張らせるものがあります。初めて編集会議に参加させていただいた時に、「これからはペーパーレス(電子版)の時代だ」と発言し、青木謹先生に「僕らの世代は活字と紙で届かないとダメだよ」とたしなめられたことを懐かしく思い出します。活字紙面と電子版の両方での更なる充実と発展にご期待ください。

(坂本薫・昭51)